

令和3年度 百舌鳥古墳群魅力発見講座

～百舌鳥古墳群と大阪の様々な古墳～

第3回

松原の古墳

—丹比野に残る古墳の痕跡—

2022
3.12

松原市教育委員会事務局
教育総務部文化財課
大矢 祐司

本日の内容

1. はじめに
2. 丹比地域について
3. 瓜破台地と周辺の高墳
4. 泉北台地と西除川周辺の高墳
5. おわりに

1.はじめに

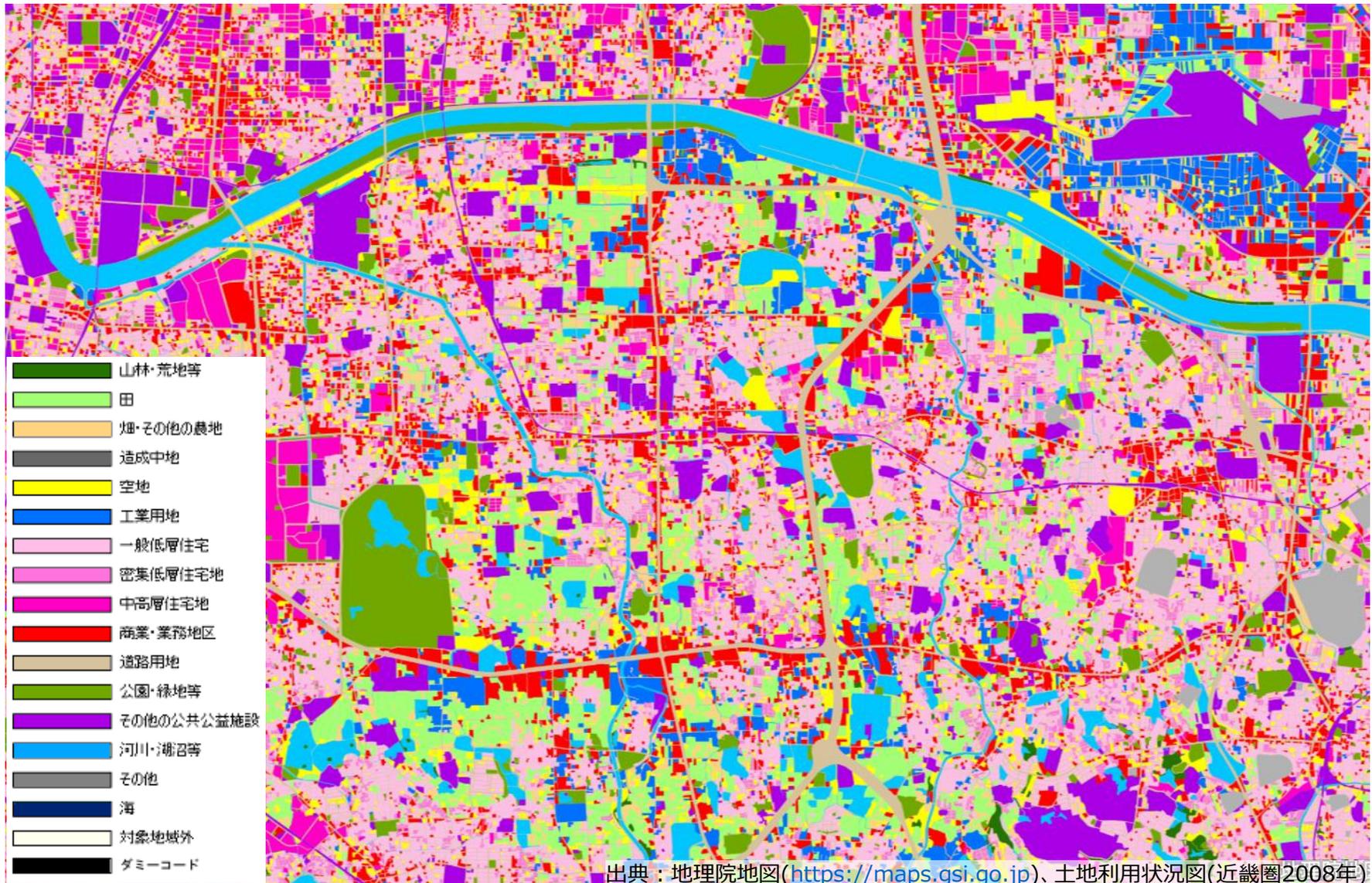
松原市の概要

- 昭和30年(1955)2月1日に2町3村が合併し誕生。
- 市政施行時の人口は約3万6千人で、現在(2022年3月1日)は11万7千人。
- 昭和32年(1957)に丹南地区と河合地区を編入。昭和39年(1964)に北若林地区が八尾市へ編入し、現在の市域となる。
- 市域は東西約5.8km、南北約5.1km、面積16.66km²。
- 市域を大和川、**西除川**、**東除川**が流れる。



出典：地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)、標準地図

土地利用の状況(2008年)

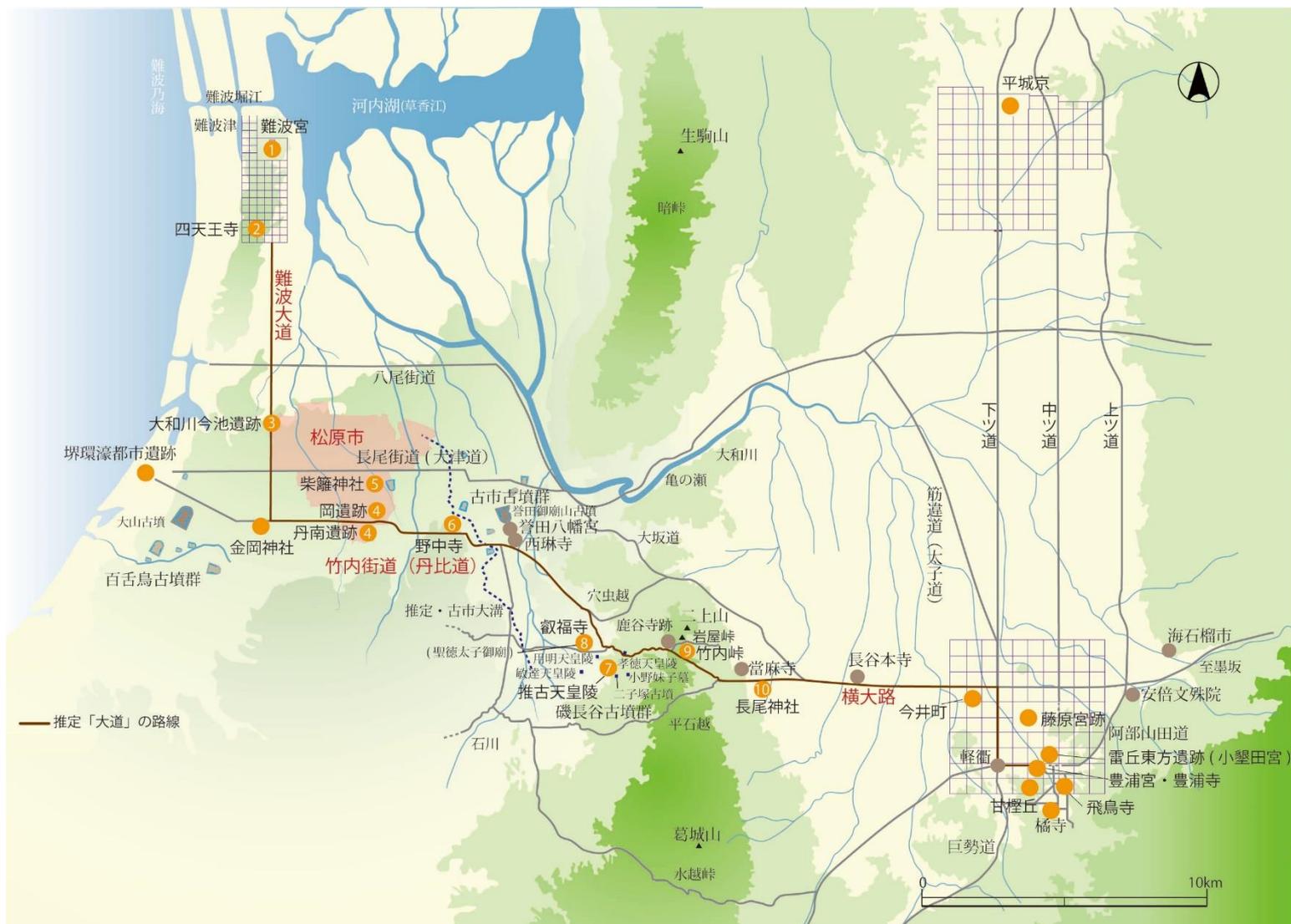


土地利用の状況(1945～50年頃)



1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」

日本遺産「竹内街道・横大路(大道)」



松原市教育委員会2018『たじひのたより』17(<https://www.city.matsubara.lg.jp/soshiki/bunkazai/1/1/5/11573.html>)

松原市の古墳の現状

- 松原市域(約4km四方)に墳丘の残っている古墳は河内大塚山古墳/大塚陵墓参考地と一津屋古墳の2基。
- 発掘された埋没古墳のうち、古墳群を形成していたことが確実なものは、立部古墳群跡のみ。
- 市内の発掘調査で、後世の遺構や包含層からの埴輪出土例が散見される。

2.丹比地域について

丹比野の範囲について

『古事記』履中天皇条

多遲比怒邇（タヂヒノ） 泥牟登斯理勢婆 多都碁母母

母知弓許麻志母能 泥牟登斯理勢婆

多遲比野（たじひの）に 寝むと知りせば 立薦（たつごも）も

持ちて来（こ）ましもの 寝むと知りせば

出典：松原市史編さん委員会編1978『松原市史』第3巻資料編1 松原市役所

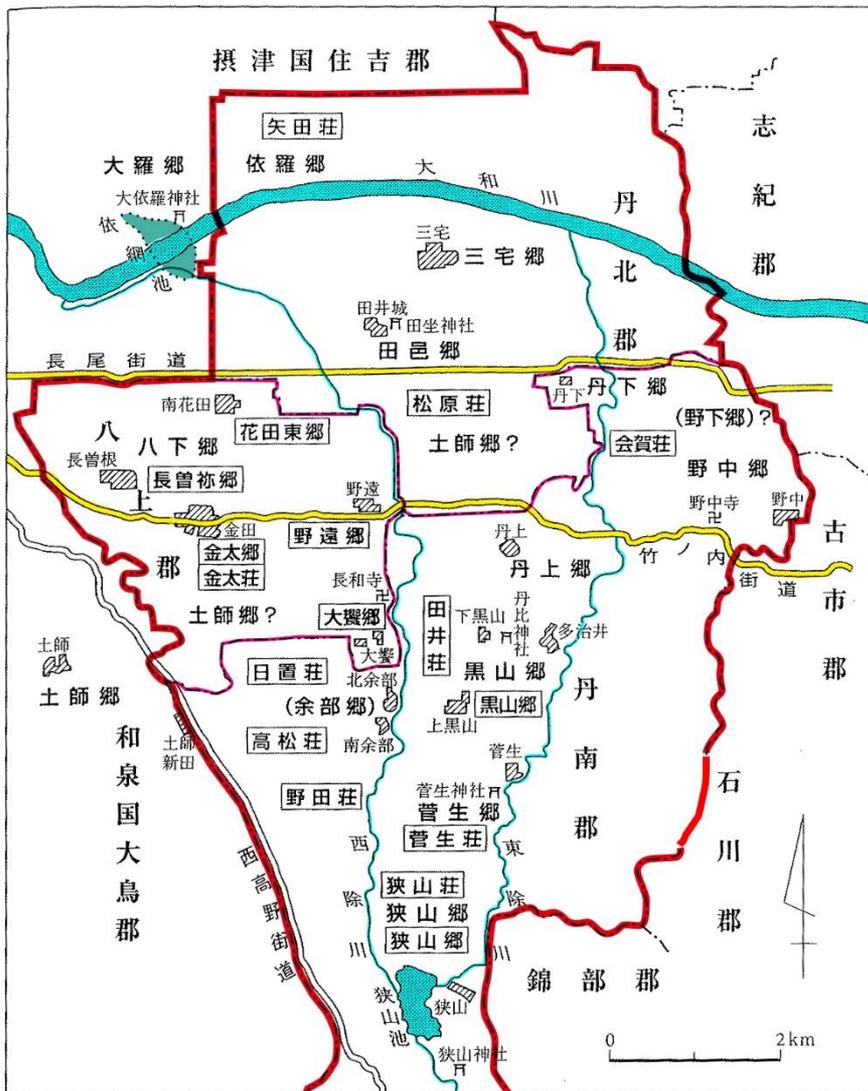
『日本書紀』

仁徳天皇14年条 「丹比邑」

孝徳天皇大化5年3月条 「黒山」「丹比坂」

天武天皇元年7月条「大津丹比両道」

丹比郡の範囲について



『和名類聚鈔』 承平年間(931~938)
に編さん

丹比郡

依羅與佐美・黒山・野中乃奈加・
 丹上・三宅三也介・八下波知介・
 田邑多無良・菅生須加不・丹下・
 土師・狭山佐也萬

倭名類聚鈔 20卷[3](元和古活字本). 国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2544218/36>

丹比郡は、遅くとも平安時代の11世紀後半には丹北、丹南、八上の3郡に分割。

丹比郡の位置と環境



丹比柴籬宮の推定地(1)

■『古事記』

弟、水齒別命、坐=多治比之柴垣宮-、治=天下-也。

■『日本書紀』

冬十月、都=於河内丹比-、是謂=柴籬宮-。

■『帝王編年記』鎌倉時代

丹比柴籬宮。河内国丹比郡。今宮坂上路北宮地是也。

出典：松原市史編さん委員会編1978『松原市史』第3巻資料編1 松原市役所

■『日本輿地通志』畿内部卷第四十二、河内國之十六 (以降、『河内志』と略) 享保20年(1735)

柴籬宮 在=松原莊植田村**広庭神祠**東北-

■『河内名所図会』享和元年(1801)

松原村上田、広庭神祠 (ひろばのやしろ) の東北をいふ

『河内名所図会』に描かれた柴籬神社

秋里籬鳶[著]・丹羽桃溪[画]、『河内名所図会』6巻6冊、
享和元年(1801)刊行



国立国会図書館デジタルコレクション(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563474/1>)

巻之4の「柴籬宮旧跡」と題する項に描かれた河内大塚山古墳(左上)と柴籬神社(右下)

この約200年前の刊行物は、著作権保護期間満了のため「国立国会図書館デジタルコレクション」で、パブリックドメインとして公開されています。

著作人格権等の諸権利に留意し、サイトからの転載を明示することで、利用者の責任において自由に利用することができます。

丹比柴籬宮の推定地(2)

■『大阪府全志 卷之四』大正11年(1922)

古の全封境は詳ならざれども、本地及び大字高見は挙げて諸殿のありし所なるべし、大宮址の東方に当りて小園田・若山・学堂・東宮・極殿山等の字地を存せるは其の証ならん。

井上正雄1922『大阪府全志』卷之4、大阪府全志発行所、
 国立国会図書館デジタルコレクション(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/965801/01>)



柴籬神社の表門、左が昭和19年(1944)大阪府設置の碑



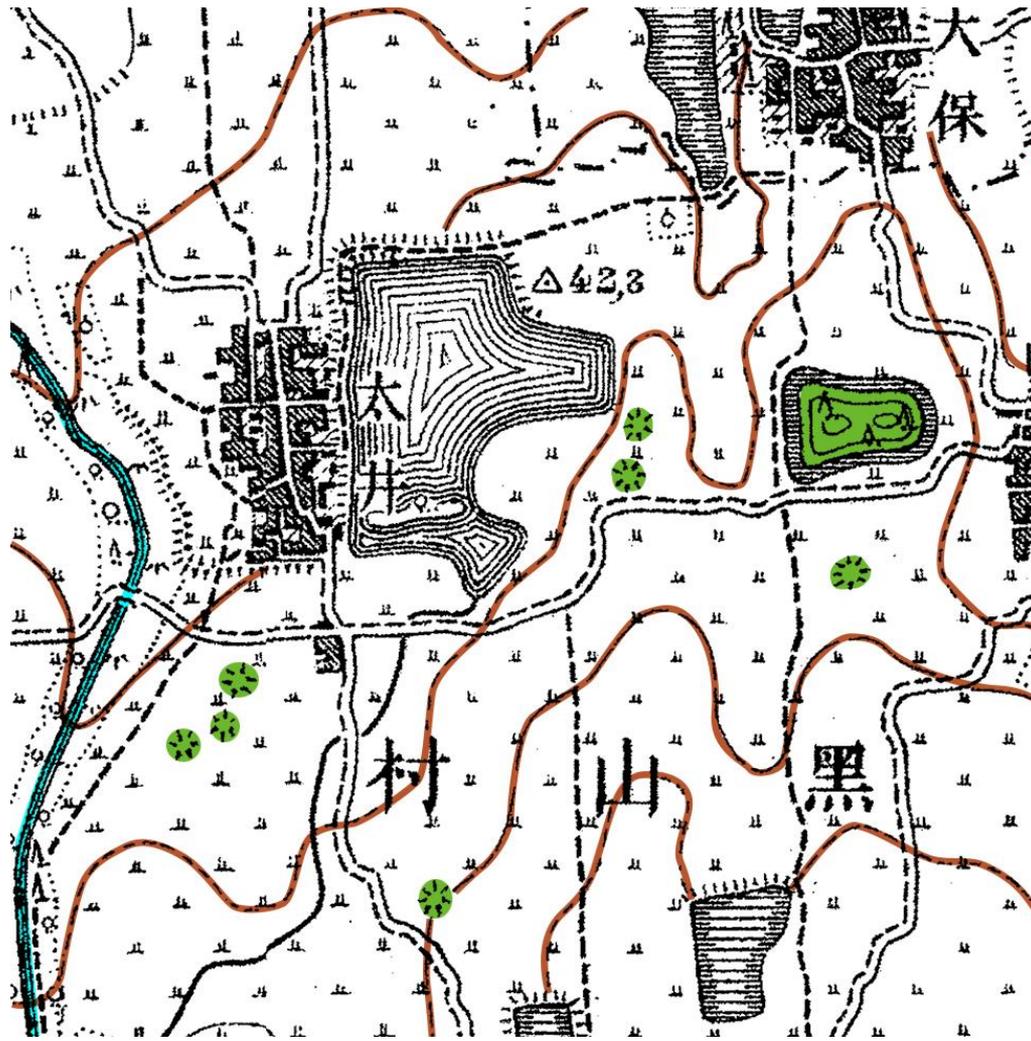
大正8年(1919)大阪府設置の碑

3. 瓜破台地と 周辺の古墳

黒姫山古墳

座標 (経緯度)

[34.545663,](#)
[135.557658](#)



出典：正式二万分の一地形図「金田」(明治41年測図同45年製版)、一部加工

- 5世紀前半 (古墳時代中期)に築造された前方後円墳。
- 墳丘長は約122m。
- 石室には甲冑24領など大量の武具を埋納。
- 周辺には陪冢や後続する首長墓と思われるものが6基。

『大阪府全志』に記された黒姫山古墳

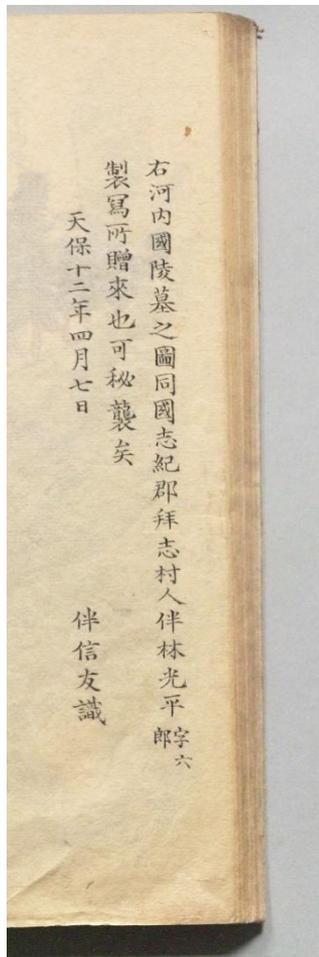
河内国 南河内郡 黒山村 大字 黒山 「荒塚」

下黒山に荒陵あり、前方後円の封土なり。高さ五間・東西壺町拾七間・広さ七反五畝貳拾七歩にして、相山池其の四周を繞り、陵上には古松繁茂せり。里俗伝へて、黒姫皇后の御陵なりといひ或は春日大娘皇后の御陵なりともいふ。河内志陵墓の条には「埴生坂本陵仁賢天皇、在黒山村管内、陵有冢二」と記し、河内鑑には天武天皇の御廟黒山にありと記せり。然れども其の何れの真なるかは未だ詳ならず。明治の初年には一時春日大娘皇后の御陵として認められたることあるも、明治十二年二月宮内省陵第百二十四号を以て廃せらる。

小塚四あり、恰も陪塚の觀を為し、一は其の南字サバ山にありて広さ壺畝貳拾參歩・一は西北字鎮守山にありて広さ拾壺歩・一は西方申山にありて広さ壺畝五歩・一は南方字ハゲ山にありて広さ壺畝參歩なり。

伴林光平が調査した黒姫山古墳

・伴友信の依頼で天保12年(1841)に河内国の陵墓を調査



国立公文書館
National Archives of Japan

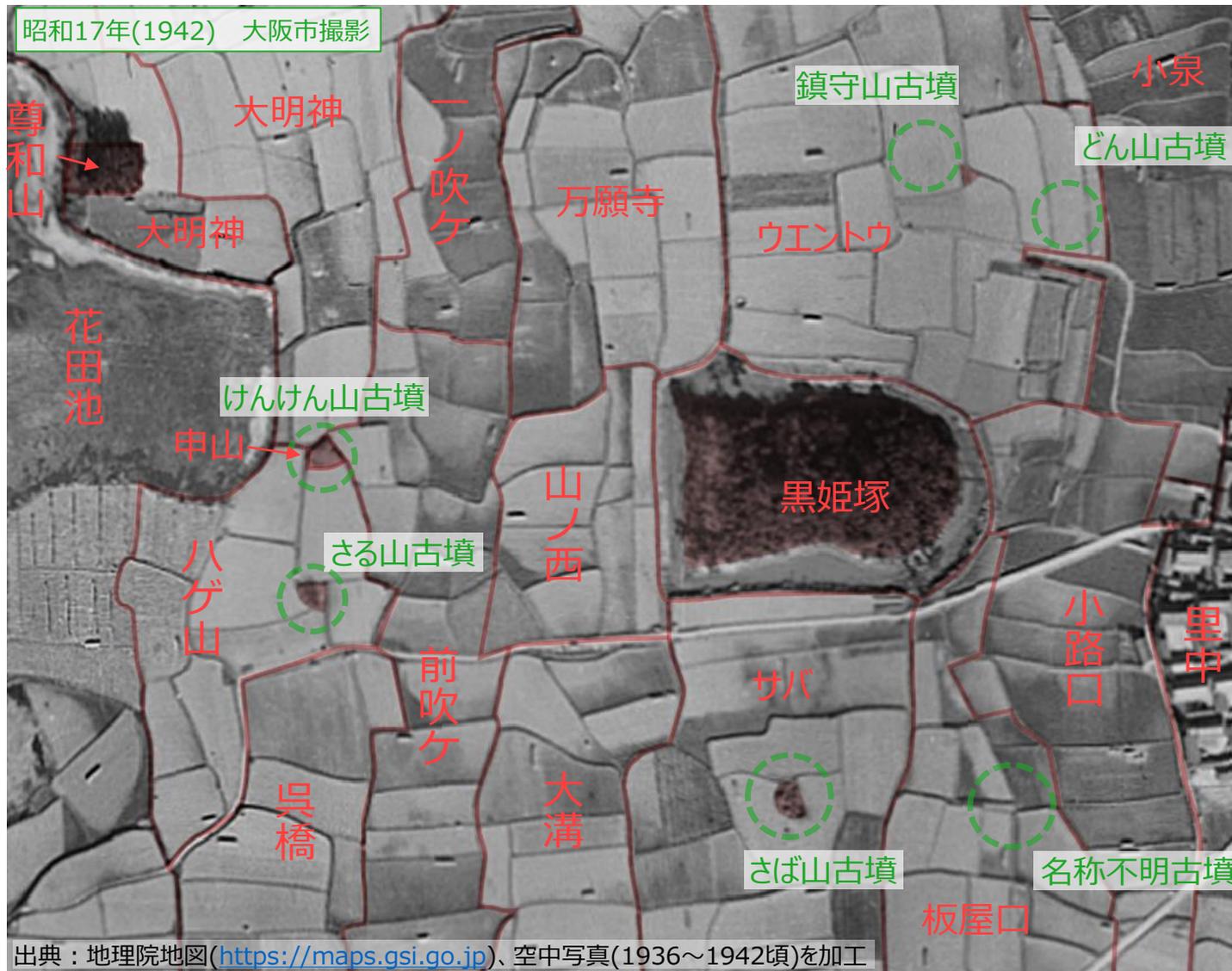


出典：国立公文書館デジタルアーカイブ (<https://www.digital.archives.go.jp/img/4287813>)

国立公文書館
National Archives of Japan

「元禄十一戊寅歳諸陵周垣成就記」宮内省諸陵寮蔵本(明治23年の写本)

黒姫山古墳周辺の小字名



小字名は、服部昌之 1975「美原町の字図」『美原の歴史』1(美原町史紀要)による。なお、この字図に記された小字名は明治20年作成の土地台帳を基にしている。

古墳の位置は、(財)大阪府文化財調査研究センター1996『太井遺跡』の図II-7「黒姫山古墳周辺の古墳分布」(p.90)による。

さば山古墳(太井遺跡)

座標(経緯度)
[34.5443793](#),
[135.5575703](#)



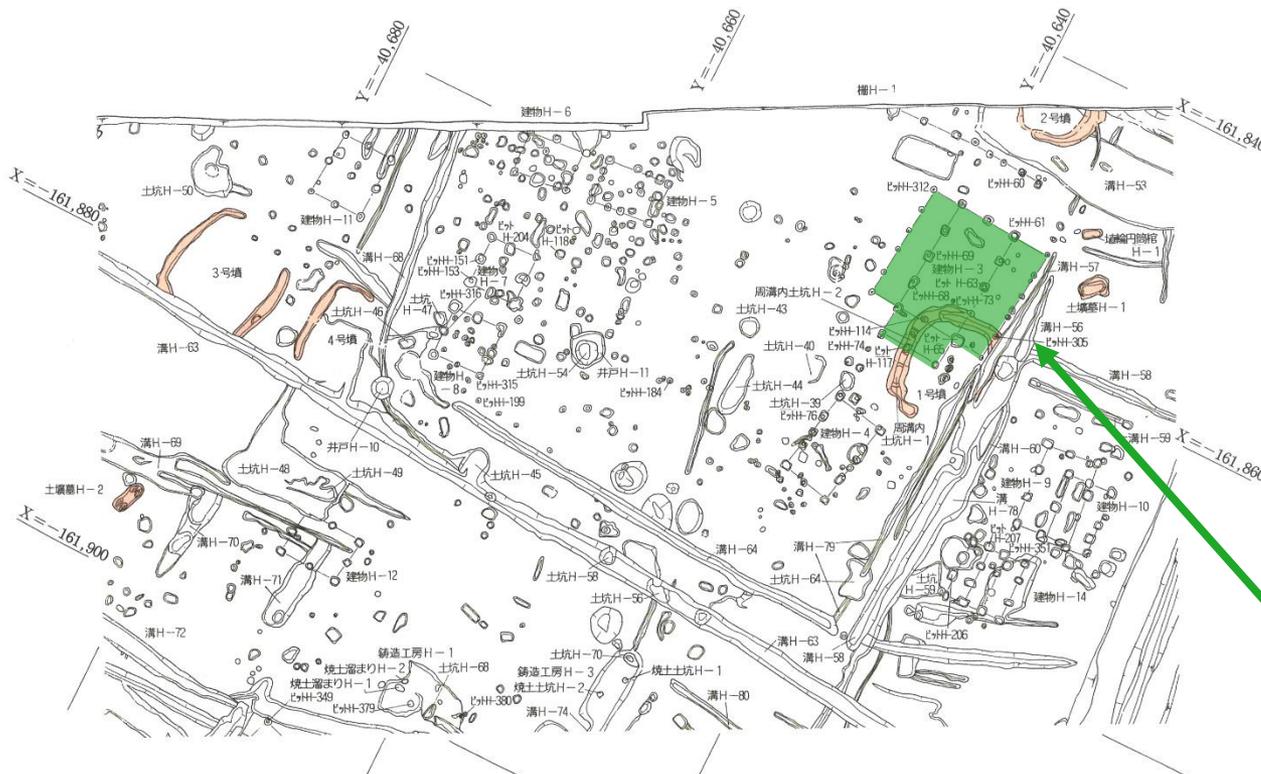
古墳全景(北東から)

- 5世紀後半(古墳時代中期) 築造の帆立貝形古墳。
- 墳丘は全長34mで、前方部は長さ9m、幅11m。
- 周溝は馬蹄形で、全長42m。
- 円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪が出土。

太井遺跡の小規模古墳群

座標 (経緯度)
[34.5430732,](#)
[135.5541562](#)

- ・黒姫山古墳の約400m南西で確認。
- ・5世紀末～6世紀に築造された規模10m以下の方墳4基。いずれも埴輪を樹立しない。



- ・円筒埴輪棺
1基と土壙墓
2基も同時期
と思われる。
- ・飛鳥時代には削平されて
建物が建つ。

『大阪府全志』に記された塚

■ 黒山村 大字 北余部 番匠塚

番匠塚は東方にあり、高さ八尺・周囲参拾式間にして上に二株の老松盤舞せり。里人は之を牛神と称して祭れり。然れども由緒は詳ならず。

■ 黒山村 大字 阿弥 明神塚・猿塚

明神塚は中央民家の後にあり、東西六間・南北七間・高さ八尺にして上に古松茂れり。又西方に猿塚あり、東西壹間・南北四間・高さ三尺にして雑草叢生せり、両塚とも一の伝説なし。河内志に「小塚六在阿弥」と記せるは、此等の塚を指せるならんも、今其の他の塚は認めがたし。

河内大塚山古墳/大塚陵墓参考地

座標(経緯度) [34.5718350,135.5680621](#)

- ・6世紀(古墳時代後期)に築造された前方後円墳。
- ・墳丘長は約335m。全国第5位。
- ・墳丘上に東大塚村の集落が存在した。
- ・大正14年(1925)に陵墓参考地となり、昭和3(1928)年には集落が移転。



昭和7年(1932)
宮内省設置の標石



羽曳野市側の周濠北東隅から見た河内大塚山古墳

『大阪府全志』に記された大塚山古墳

河内国 中河内郡 松原村 大字 西大塚 大塚山古墳

大塚山は東大塚との界にあり、一に王塚山に作る。一丘隆然として田圃の間に起り、周囲に濠池を繞らし、上に菅原神社ありて道真を祀りしも、明治四十年十二月十八日柴籬神社に合祀せられて今はなし、俗に天神山と呼べるは此の菅原神社ありしに依る。山は正しく一個の古墳にして、前方後円式のものなりしも、前方部は開墾せられ、今は後円部のみ残りて高さ水面より約六拾二尺なり。其の前方部なる開墾せられし所には、人家若干建てり。河内志には来目皇子の埴生山岡墓なりと記せるも、同皇子の墓は南河内郡埴生村大字埴生野の羽曳山にあれば、同皇子の墓にあらざるは明なり。又里人は之を阿保親王の墓なりと伝え、倭漢三才図も阿保親王墓在大塚山と記し、南遊紀行にも同じく王塚山に阿保親王の墳なりとせるも、同親王の墓は摂津国菟原郡打出村にありといへば、容易に信じがたし。近時学者中には雄略天皇の御陵ならんかとの説を為せるものあり、内務省は皇陵に準ずべき形式のものなりと認め、大正十年三月五日告示第三十八号を以て、史蹟名勝天然記念物保存法第一条に依り、史蹟古墳として指定せり。

伴林光平が調査した河内大塚山山古墳

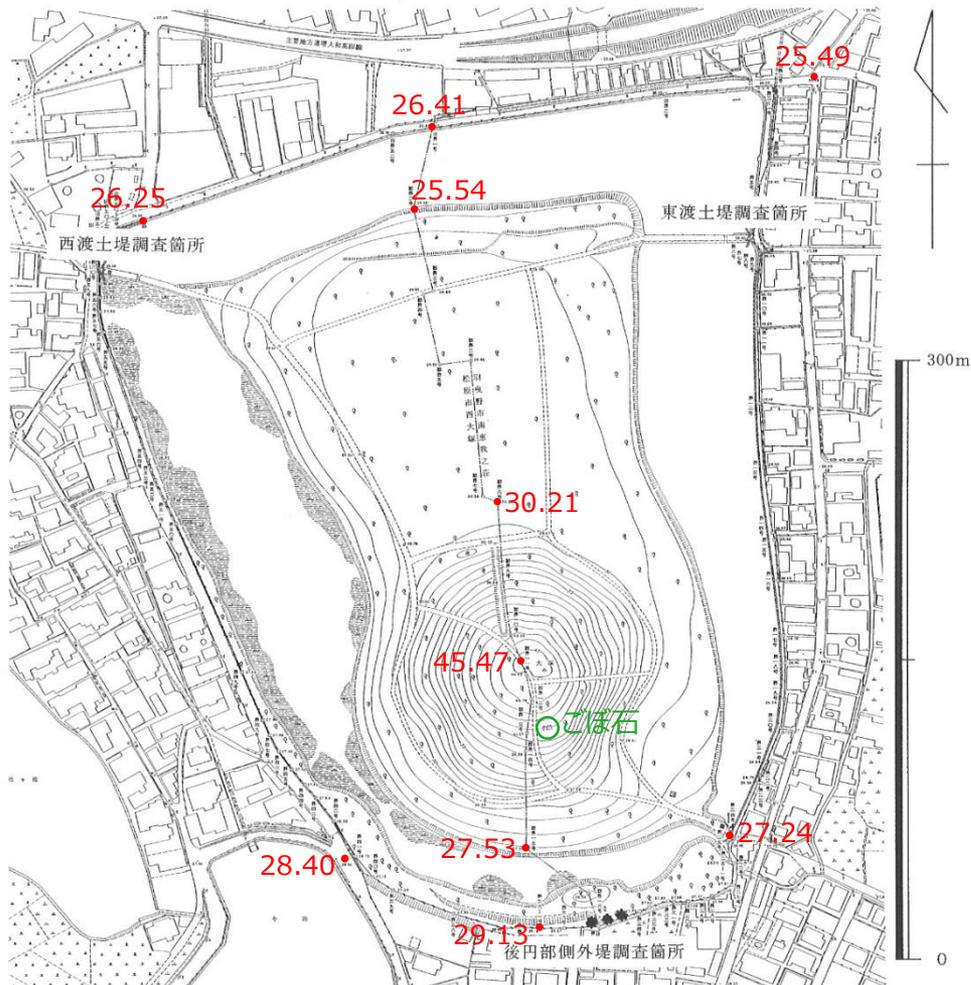


出典：国立公文書館デジタルアーカイブ (<https://www.digital.archives.go.jp/img/4287813>)

国立公文書館
National Archives of Japan

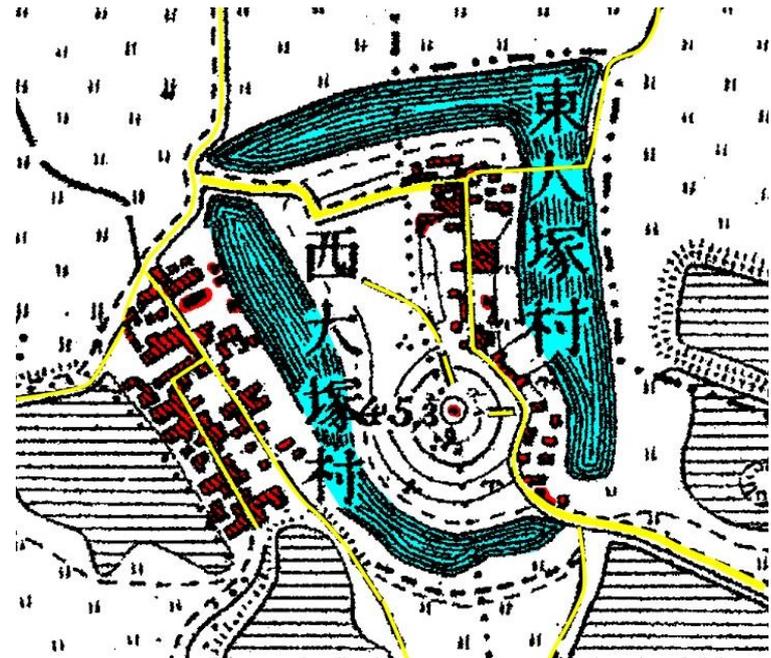
「元禄十一戊寅歳諸陵周垣成就記」宮内省諸陵寮蔵本 明治23年の写本

河内大塚山古墳の現状



- 墳丘長約335m、後円部径約180m、前方部幅約220m、
- 周濠肩部まで含む主軸長約410mで前方部幅は約350m

出典：[岸本直文2011「河内大塚山古墳の基礎的検討」『ヒストリア』228](#)



出典：二万分の一仮製地形図「金田村」(明治20年測図同25年製版)、一部加工

出典：宮内庁書陵部2010「大塚山陵墓参考地の渡土堤整備その他工事に伴う立会い調査調査」『書陵部紀要』61(陵墓編)、第40図(p.104)

墳丘東側の旧況(1937年頃)

写真は上下ともに大阪府教育委員会提供

(南)

後円部

東渡土堤

(北)

前方部

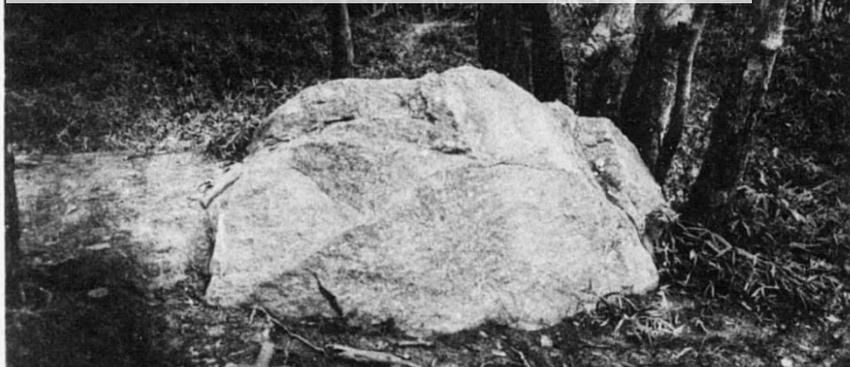
西大塚の集落

後円部に露頭する「ごぼ石」



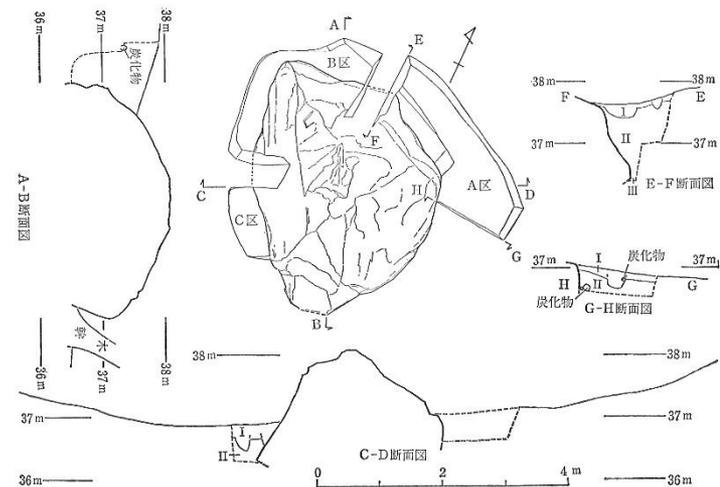
『河内名所図会』の「柴籬宮旧跡」に描かれた後円部(部分)

大阪府編1934『大阪府史蹟名勝天然紀念物調査報告』第5輯、
図版第32



国立国会図書館デジタルコレクション
(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1119865/42>)

後円部の南東斜面に露頭する「ごぼ石」(昭和初期)



「ごぼ石」の測量図

出典：宮内庁書陵部1991「河内大塚山陵墓参考地の墳丘調査」『書陵部紀要』42、第11図(p.118)

河内大塚山古墳の特徴

- 墳丘は前方部が1段で、後円部が3段築成。
- 低く平らな前方部は、後世に削られたのではなく、元からこの形状であった可能性が高い。
- 墳丘前方部端の中央が外側に張り出す「剣菱形」で、周濠も同じ形状。
- 現在のところ、埴輪と葺石がなかった可能性が高い。
- 後円部に横穴式石室が存在する可能性があり、江戸時代には「石之磨戸」「磨戸石」と呼ばれ、石材が露出していた可能性がある。



墳丘から移された石材(1)

- 古墳の石室材(黒雲母花崗岩)を転用した可能性
がある天満宮(大塚社)の手洗鉢。
- 大きさは長さ約1.5m、幅約0.6m、高さ約0.5m。
- 現在は柴籬神社に安置。

[西田孝司1998「河内大塚山古墳と横穴式石室石室」『ヒストリア』159](#) で資料報告



(1801)
 享和元辛酉年
 九月
 東大塚村
 氏子

墳丘から移された石材(2)

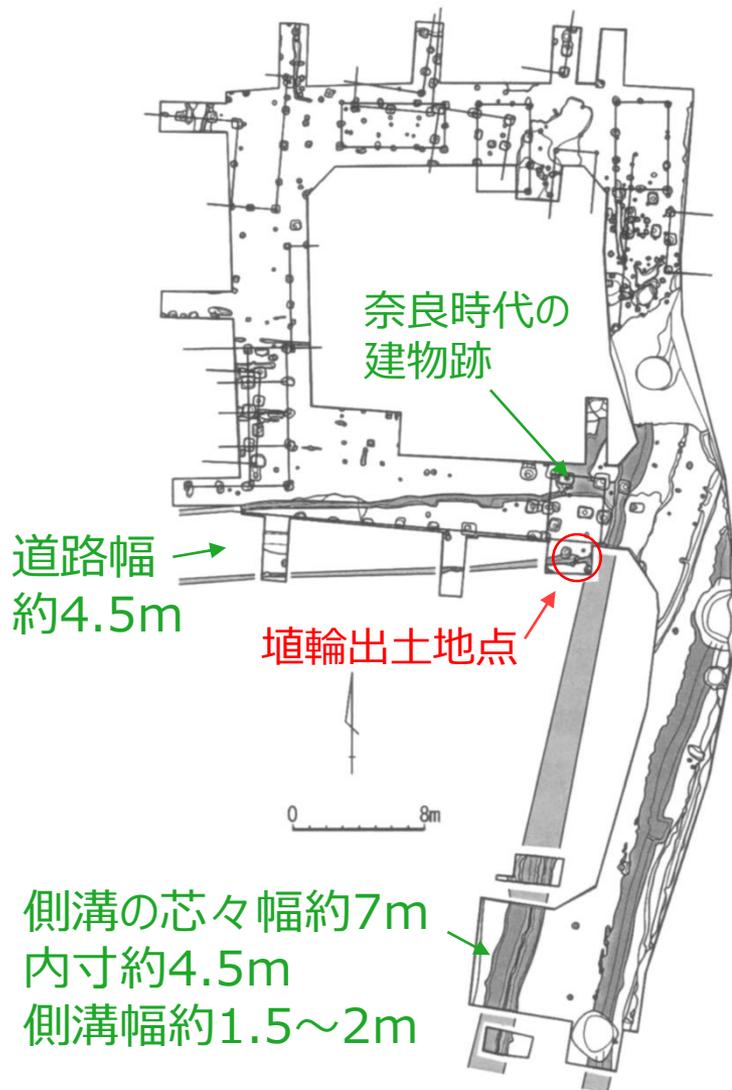
- 古墳の石室材(黒雲母花崗岩)を転用した可能性がある天満宮遥拝所の台石。
- 石棺(流紋岩質火山凝灰岩質溶結凝灰岩)を転用した可能性がある百度石。

[西田孝司1998「河内大塚山古墳と横穴式石室石室」『ヒストリア』159](#) で資料報告



東大塚地区の地蔵堂と隣接する天満宮遥拝所(羽曳野市南恵我之荘7丁目)

丹南遺跡(E9-2-18)



道路側溝の樋管に転用された埴輪



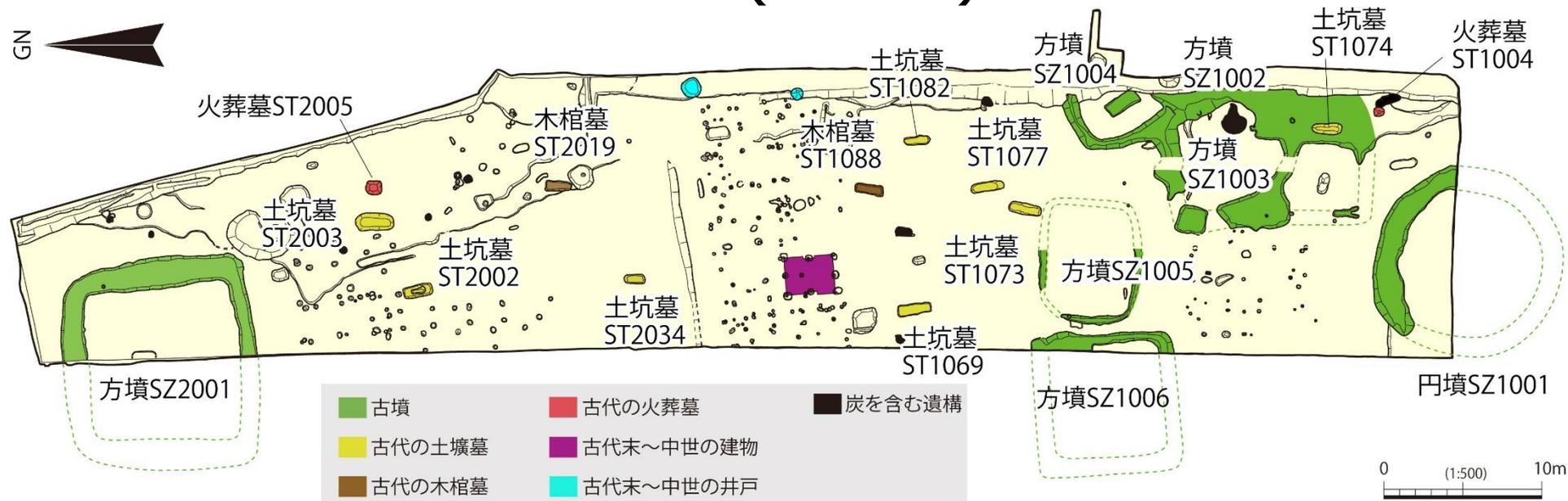
側溝の幅約0.4m



立部古墳群跡(F7-2-4・5)

座標(経緯度)
[34.5667845,](#)
[135.5670532](#)

- 5世紀後半～6世紀に築かれた古墳群(7基)。
- 方墳SZ2001(5世紀後半)とそれに続く円墳SZ1001(5世紀末～6世紀前半)のみ埴輪を樹立する。
- 飛鳥時代～平安時代(9世紀)も墓域が継続。



最初に築造された方墳SZ2001



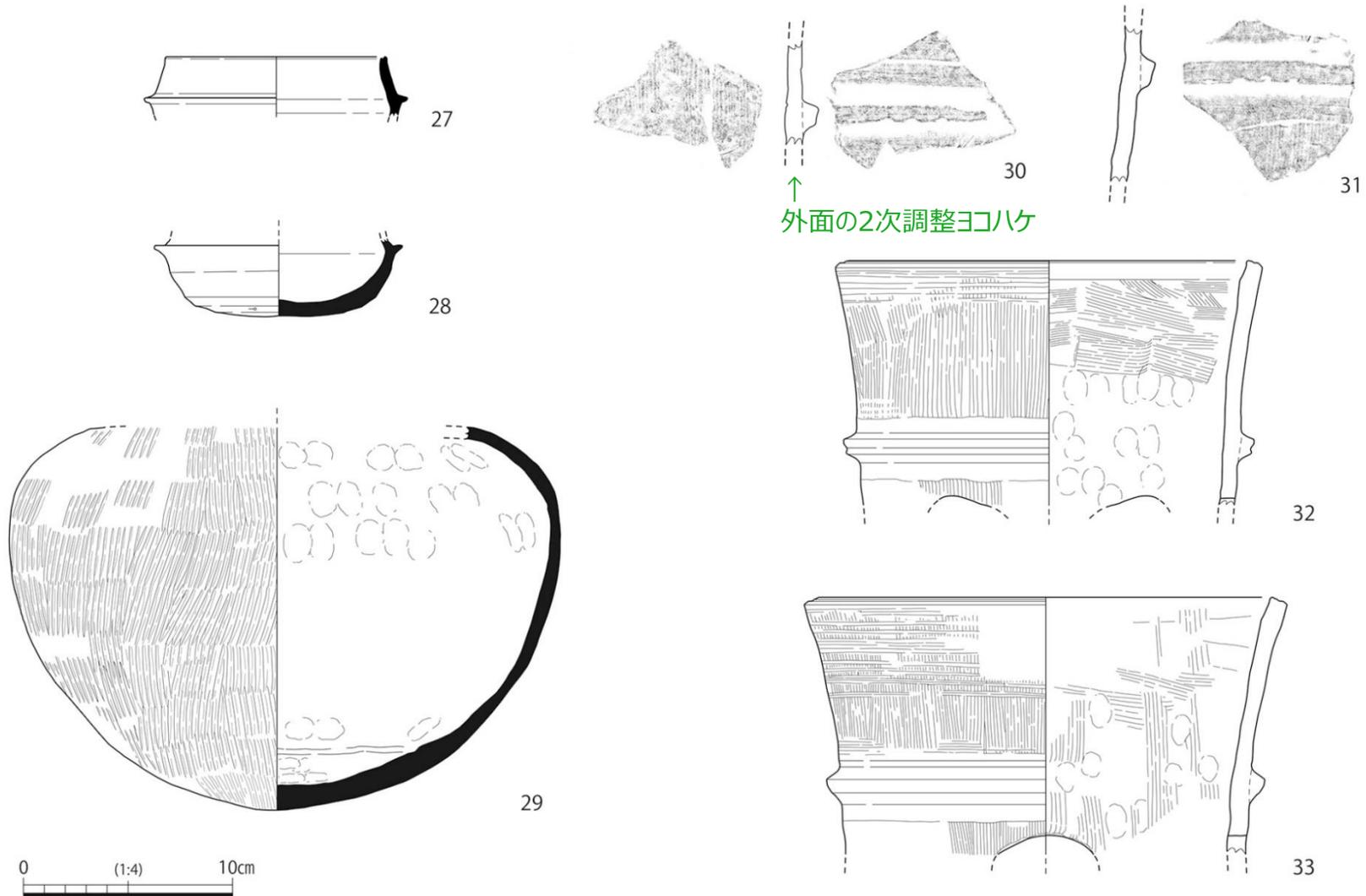
方墳全景(南東から)

- 5世紀後半の方墳。
- 墳丘規模は約11m。
- 周溝幅は0.9～2m。



周濠の遺物出土状況(北から)

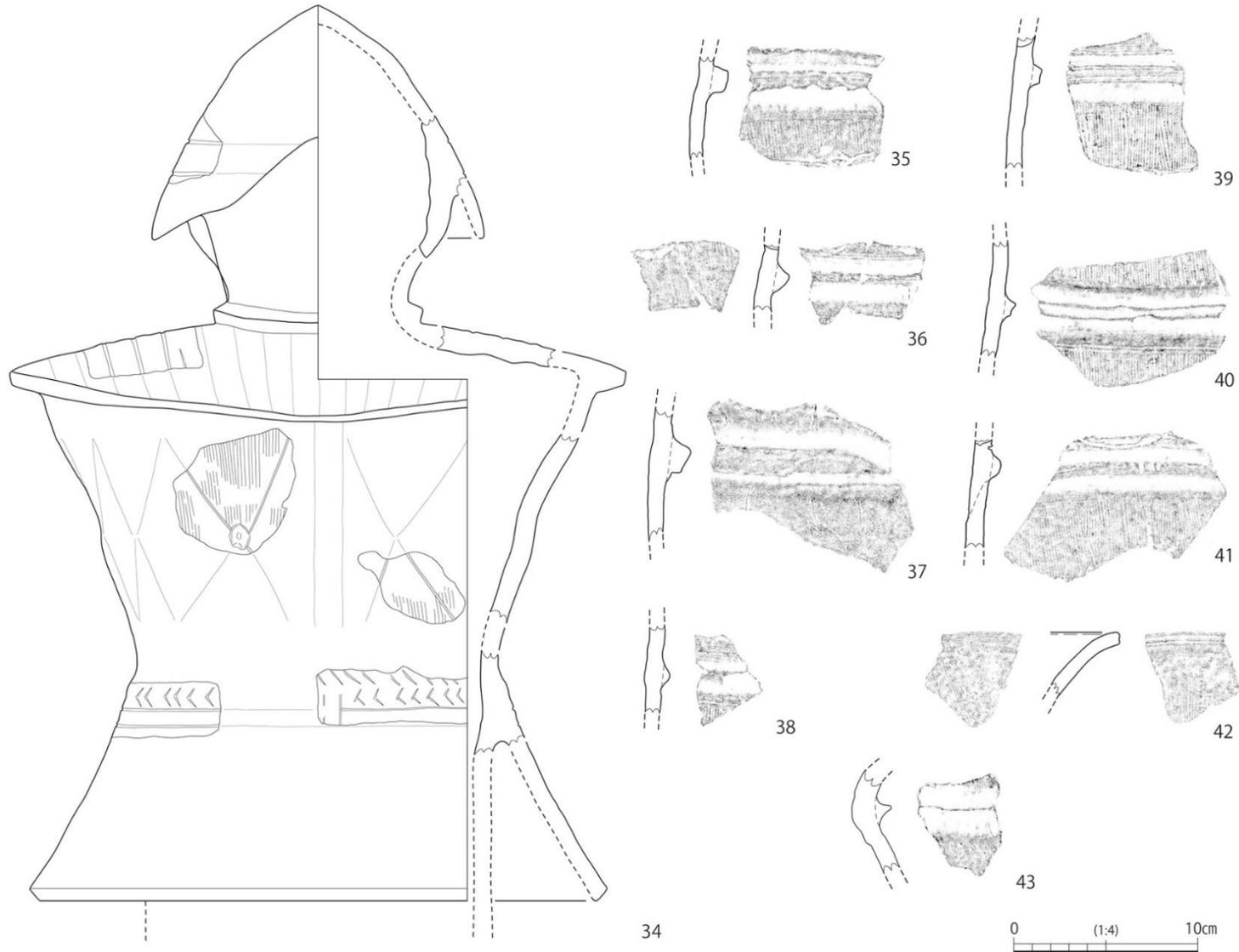
方墳SZ2001出土遺物(1)



出典：松原市教育委員会2021『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市文化財報告9、図24(p.19)

全国遺跡報告総覧(<http://doi.org/10.24484/sitereports.106098>)

方墳SZ2001出土遺物(2)



方墳SZ2001出土埴輪



旧水路から出土した埴輪

- ・調査地東側の一段低い耕地へと水を送るための旧水路の水口に朝顔形円筒埴輪を転用。北西約15mの方墳SZ2001の埴輪と考えられる。



朝顔形円筒埴輪

残存高40cm

底径11.5cm

須恵質で焼成による黒斑無

3条4段で2・3段目に円形透かし

外面の2次調整ヨコハケがなく
タテ又は斜めハケ

内面はタテハケおよびナデ

突帯間隔は底部～1段目が
12.1cm、その上は9.6cm



円筒埴輪

残存高9.6cm

復元口径23.6cm



残存高12cm

復元底径14.4cm

周溝を共有する小規模古墳



調査区南側の全景(北から)

調査区南側で確認された小規模古墳6基(東から)

平安時代(9世紀前半)の火葬墓



墓壙に安置された蔵骨器

蔵骨器に蓋を固定していた粘土

土師器杯身



蔵骨器の蓋を外した状態

出典：松原市教育委員会2021『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市文化財報告9、
原色図版2-1・-2

<http://doi.org/10.24484/sitereports.106098>

蔵骨器と埋納された火葬骨

- ・被葬者は40～59歳の男性1名。



蔵骨器X線CT断彩図

出典：松原市教育委員会2021『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市文化財報告9、原色図版1-1・付属DVD収録画像

<http://doi.org/10.24484/sitereports.106098>

蔵骨器、埋納火葬骨、墓壙出土土師器碗、木炭、焼土

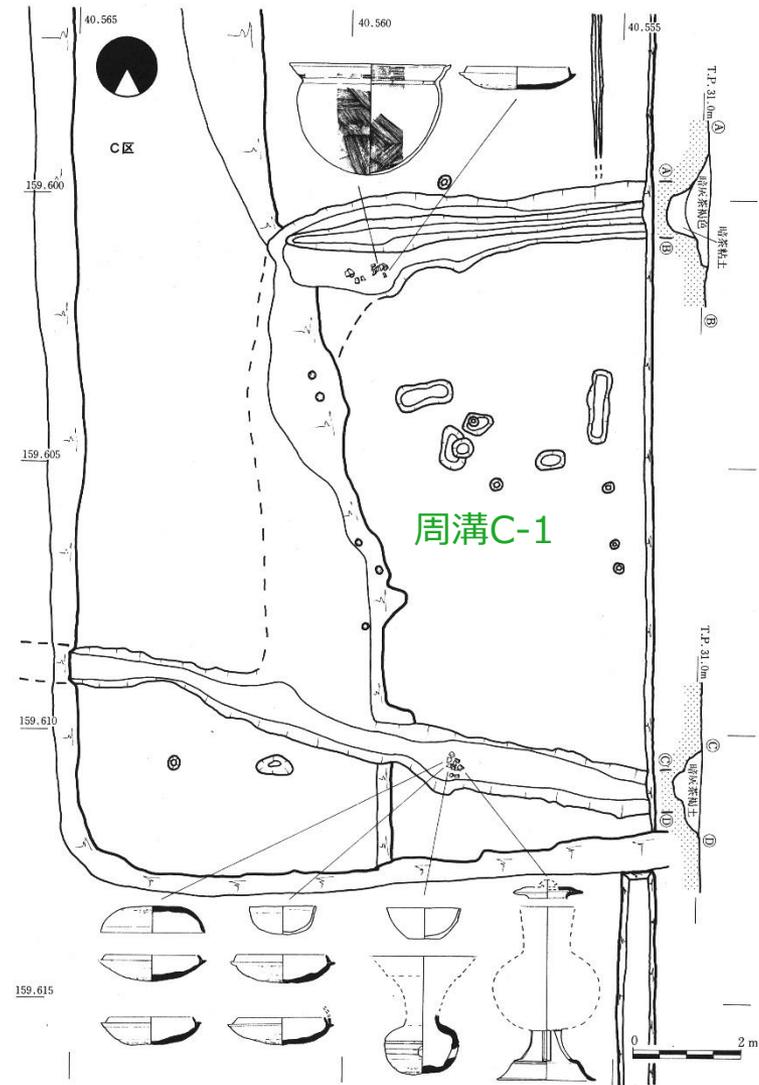
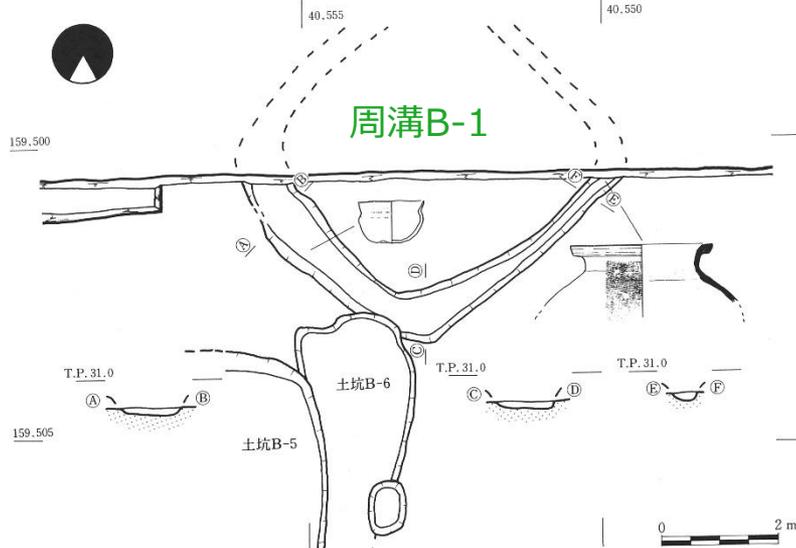
岡遺跡

旧称：
岡2丁目所在遺跡

周溝B-1
座標 (経緯度)
[34.5645243,](#)
[135.5552114](#)

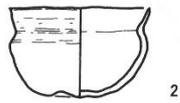
周溝C-1
座標 (経緯度)
[34.5635804,](#)
[135.5551913](#)

- ・6世紀後半の方墳2基。
- ・100m以上離れて存在し、墳丘規模は11.2m以上と4m以上。
- ・周溝から埴輪が出土。

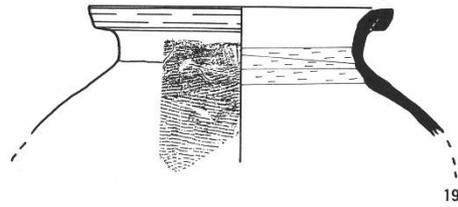


方墳から出土した土器と埴輪

周溝B-1出土土器

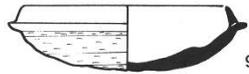


2



19

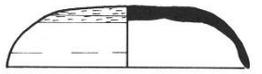
古墳時代後期



9



10



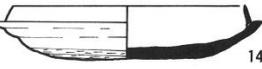
11



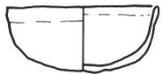
12



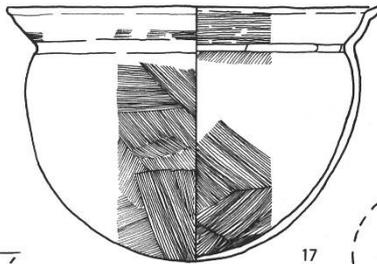
13



14



15



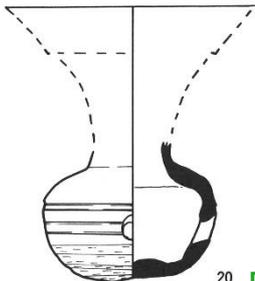
17



18



16

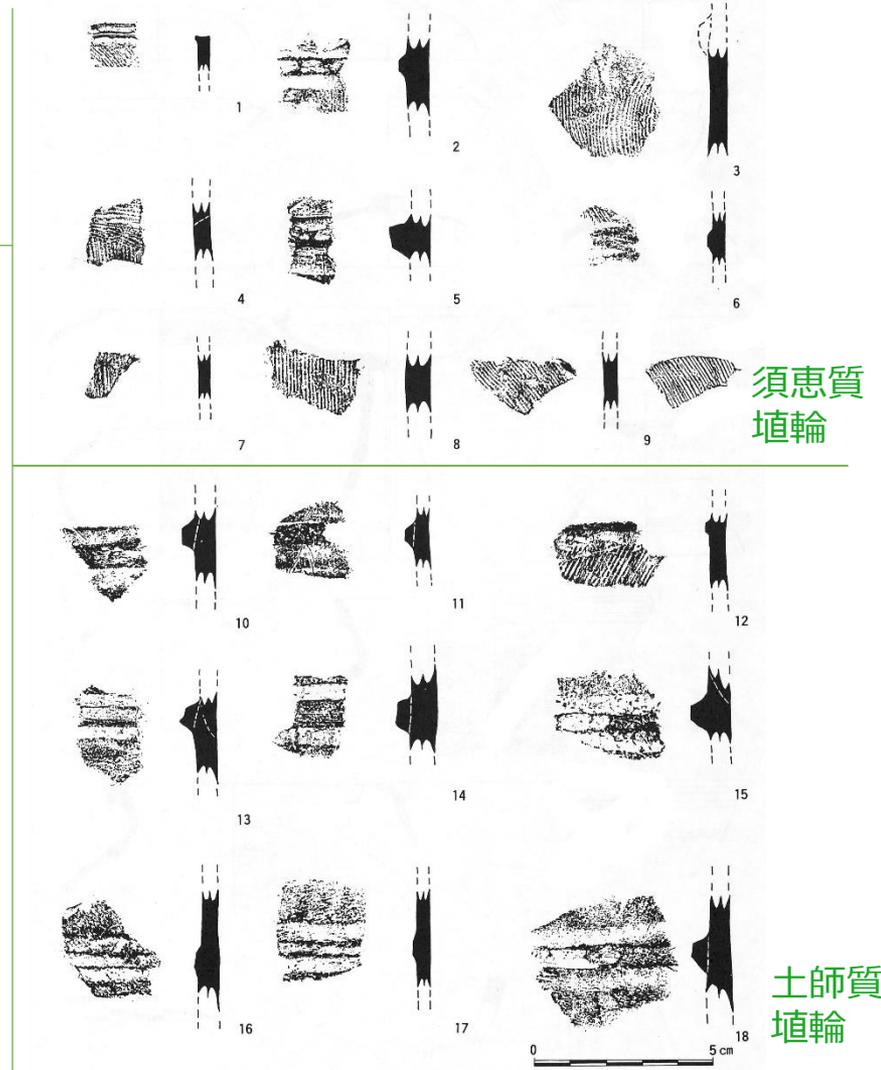


20

周溝C-1出土土器



10cm



須恵質
埴輪

土師質
埴輪



5cm

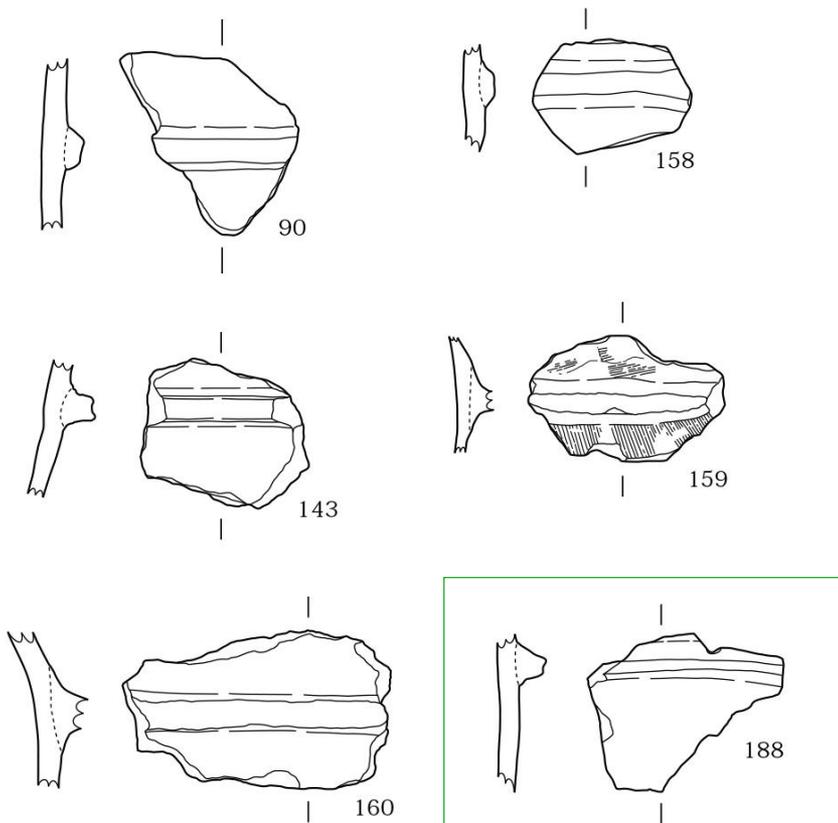
新堂遺跡 (E7-1-61)

座標 (経緯度)
[34.5686852,](#)
[135.5522496](#)

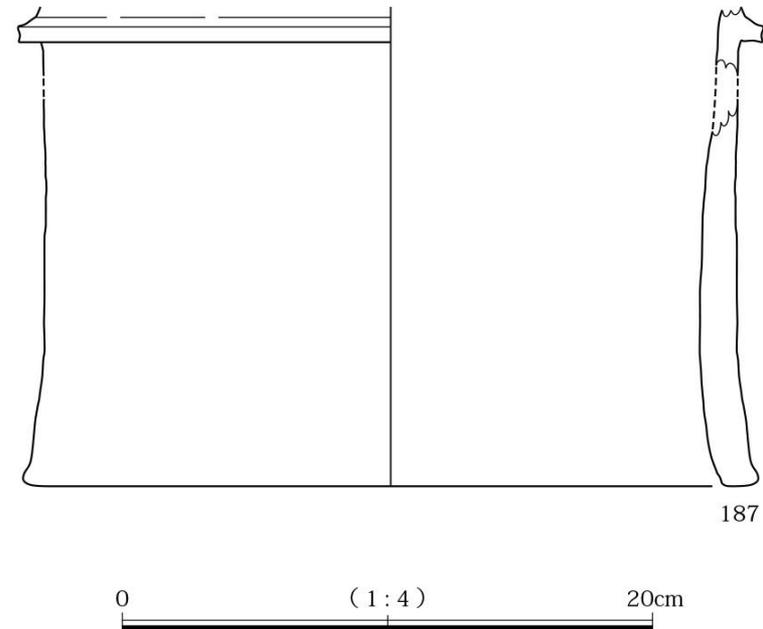
座標 (経緯度)
[34.5661308,](#)
[135.5522517](#)

座標 (経緯度)
[34.5660129,](#)
[135.5528921](#)

- 主な調査成果は弥生時代後期の集落跡。
 しかし、包含層から円筒埴輪が出土。

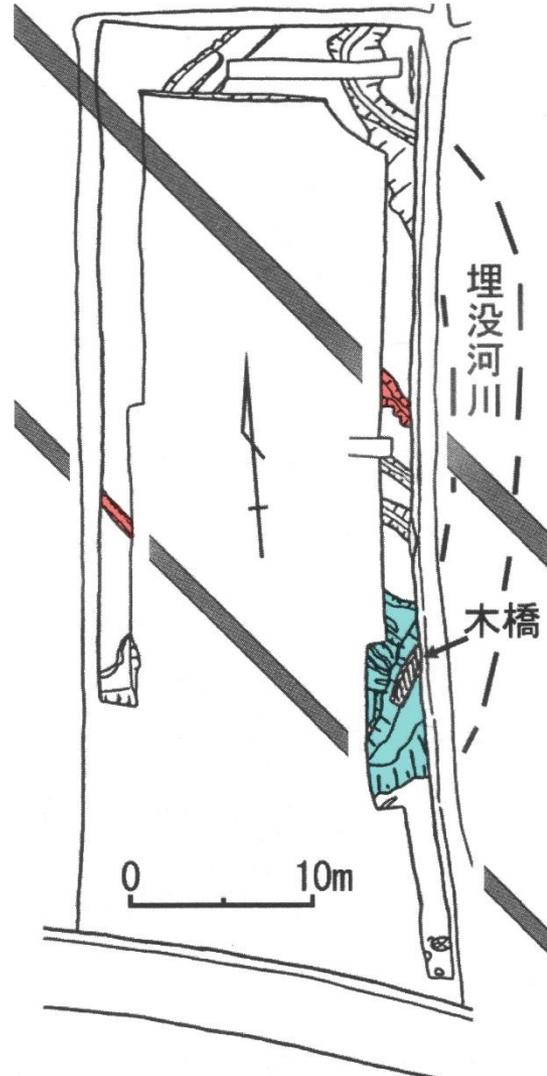


古墳時代前期の円筒埴輪



新堂遺跡(E6-3-4)

座標 (経緯度)
[34.5691272,](#)
[135.5538225](#)



- 6～7世紀の木橋が架けられた自然流路。
- 溝から埴輪が出土したため、新堂1号墳として紹介された。しかし、他の遺構の可能性を検討する必要がある。

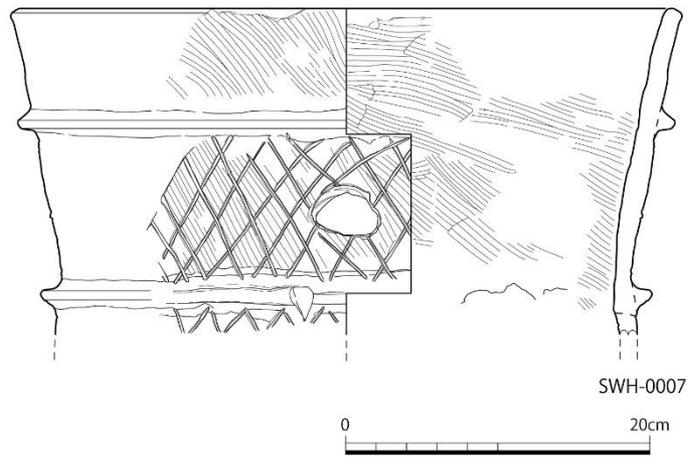
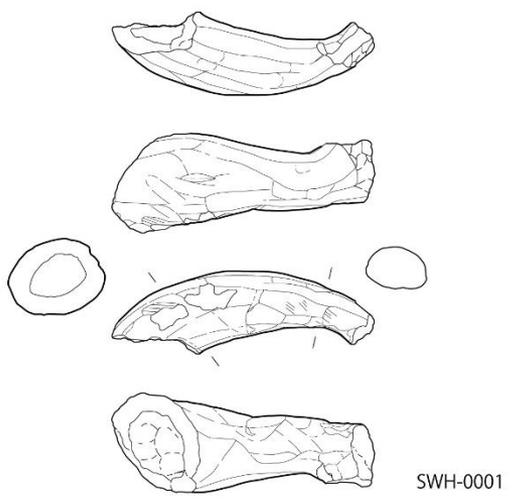
埴輪が出土した自然流路と溝



自然流路に架けられた木橋と埴輪出土状況

溝からの埴輪出土状況

流路から出土した須恵器と埴輪



丹比大溝(E5-4-41)

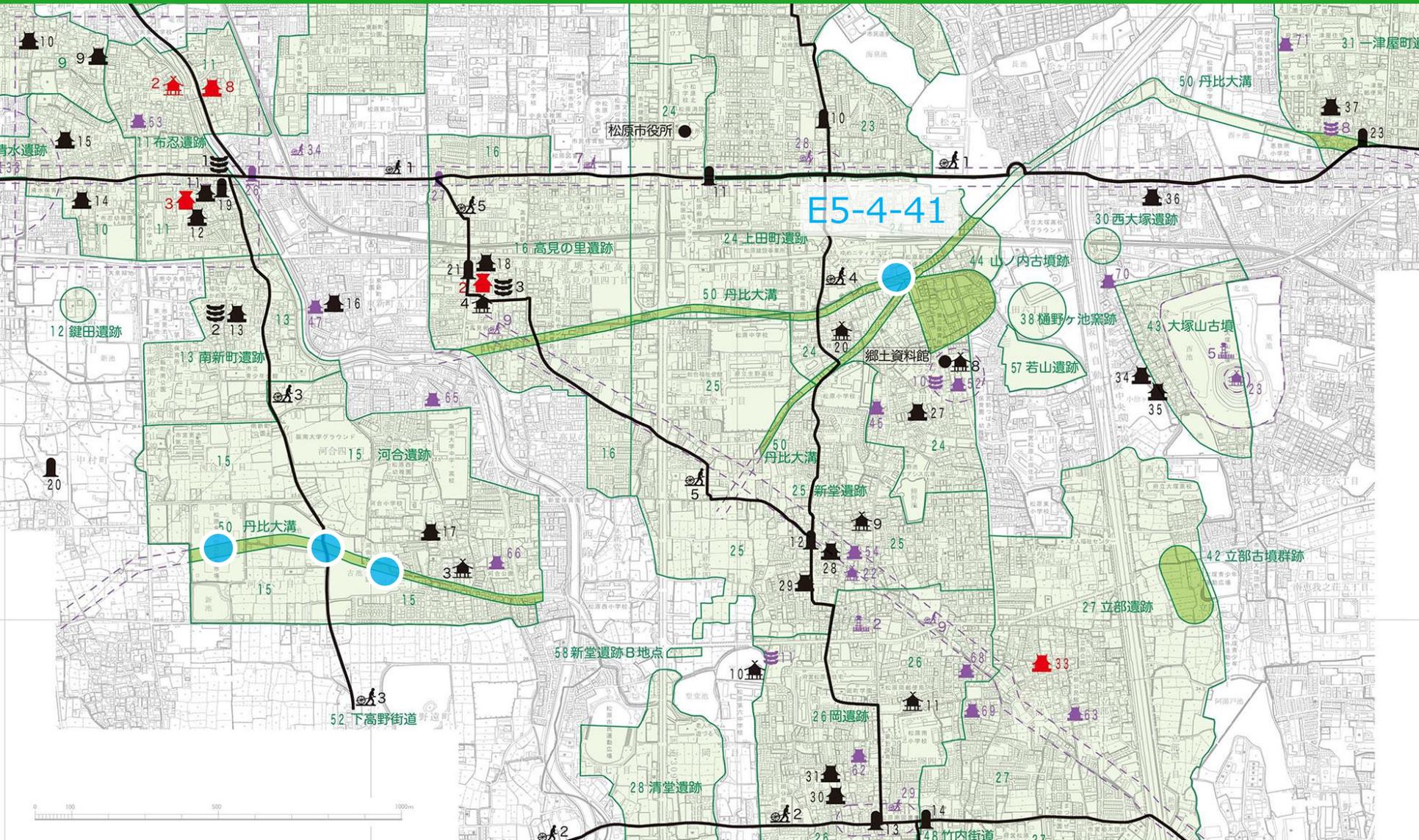
座標 (経緯度)
[34.5745884,](#)
[135.5582840](#)

- 瓜破台地を開削した飛鳥時代(7世紀)の大溝から埴輪片が出土。



幅約10m、深さ約3m、断面V字、傾斜角約40°

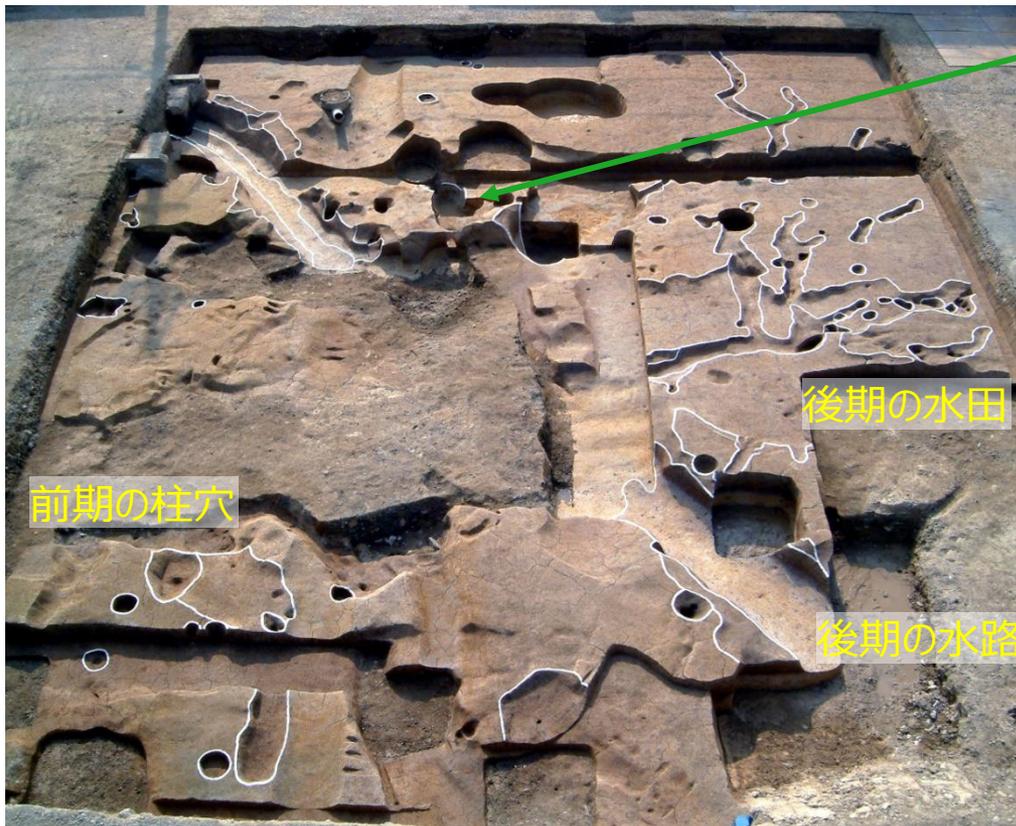
丹比大溝の開削ルート



阿保遺跡 (E5-1-109)

座標 (経緯度)
[34.5780135,](#)
[135.5546152](#)

- 瓜破台地西側縁辺部の開発。
古墳時代前期は集落だが、
後期には水田となる。



古墳時代前期の井戸



井戸から出土した土器

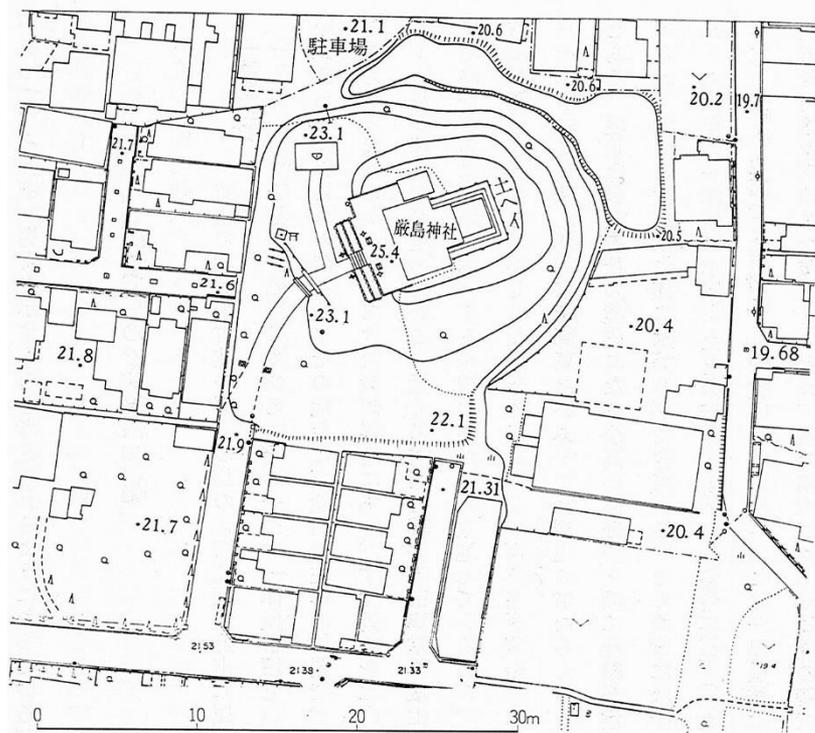
一津屋古墳(御墓)

座標(経緯度)
34.5797400,
135.5759432

『河内志』享保20年(1735)

荒墓

在_一津屋村_一曰_ニ御(ミ)墓_一、在_ニ矢田
部村_一曰_ニ大冢_一、又東瓜破村芝村各_一



- ・鐘付山の山号をもつ
厳島神社が存在。
- ・発掘調査歴がなく、
遺物の表採もない。
- ・直径20m、高さ4m程
の高まりが残る。

昭和17年(1942) 大阪市撮影



出典：地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp>)

絵図に描かれた一津屋古墳



一津屋村絵図(読み取り図、部分)

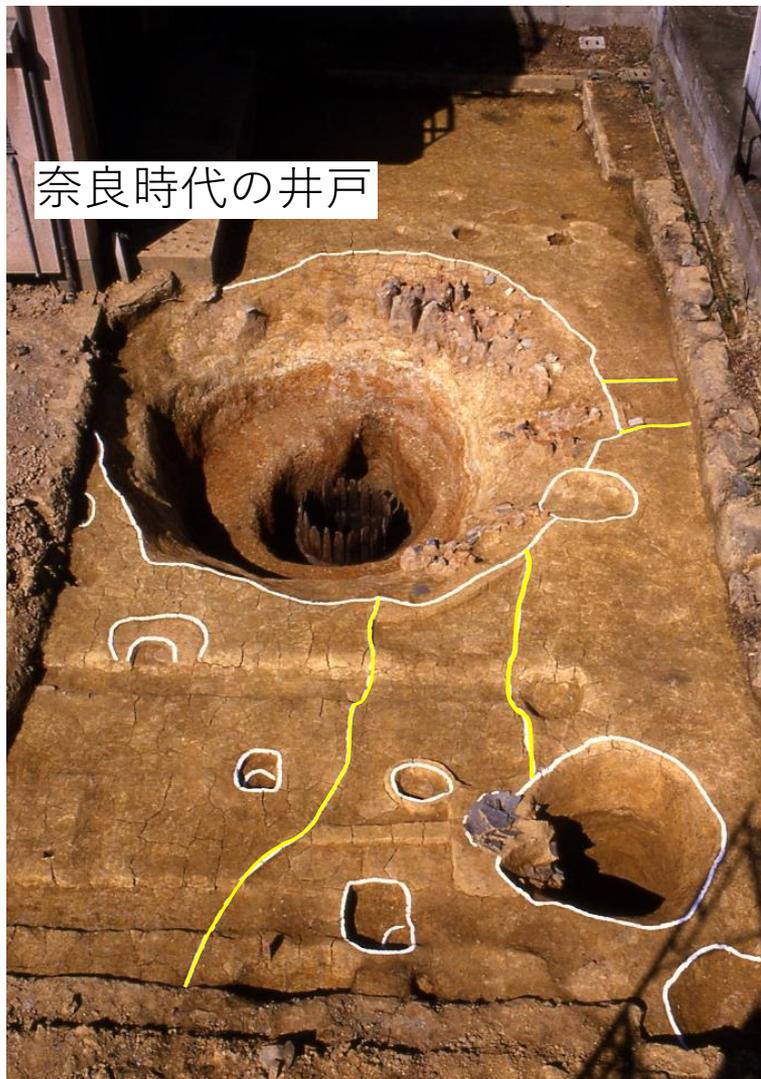


明治8年 地租改正地引絵図(読み取り図、部分)

鳴泉村領 築上池兼除川第三

一津屋遺跡(G5-1-4)

座標(経緯度)
[34.5778699,](#)
[135.5738300](#)



調査区の全景(黄色線が古墳の周濠)

- 5世紀後半～6世紀中頃の方墳(一津屋2号墳)。
- 墳丘規模は5m以上。
- 墳丘裾に須恵器埋甕。
- 埋甕内部から朝顔形埴輪が出土。



古墳時代の須恵器埋甕

奈良時代の井戸と古墳の埴輪



奈良時代の井戸



残存高11cm
口径31.8cm



家形埴輪



須恵質の朝顔型
円筒埴輪

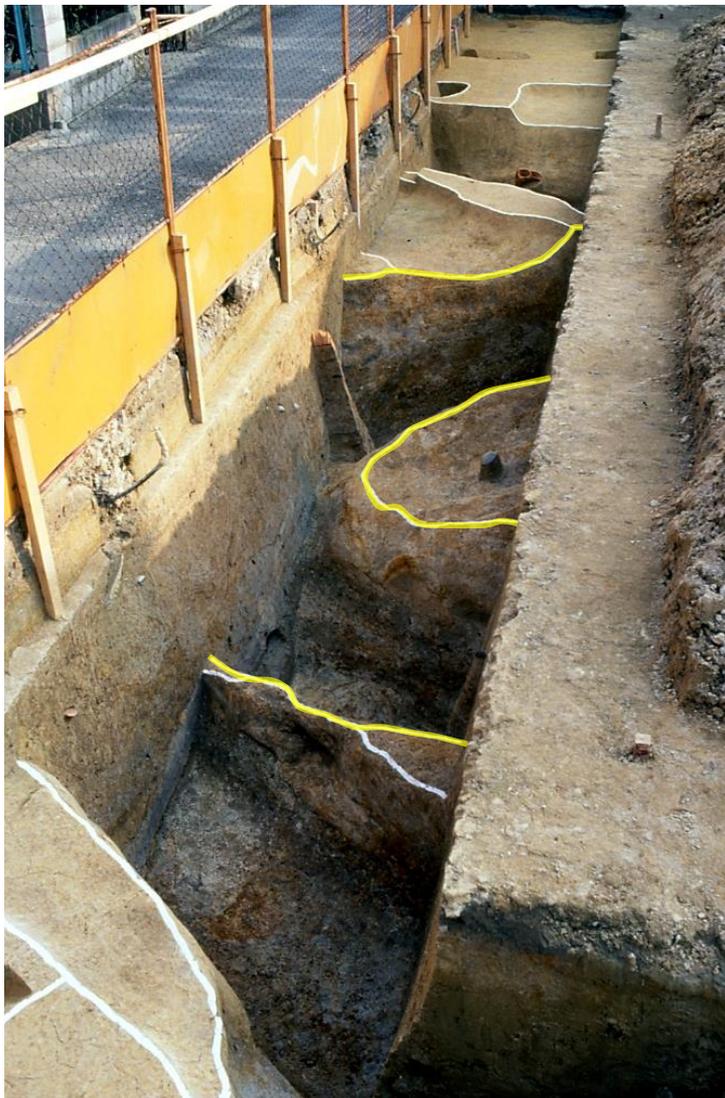
川ノ上古墳跡(G4-4-3)

座標(経緯度)
34.58056184,
135.5759592



- 巖島神社(一津屋古墳)の約100m北。
- 5世紀後半以降に築造された前方後円墳。
- 周溝は幅約4m、深さ1.4m。
- 墳丘長約24m、周溝含む全長約30mに復元できる。
- 形象埴輪が出土。

川ノ上古墳跡前方部の周溝



Tr.1の周濠(北から)



Tr.1の周濠(南から)

古墳周辺から出土した遺物

S0002B溝



人物埴輪(巫女?)の頭部



馬形埴輪の首から頭部

S0003土坑



口径11.7cm、器高4.5cm



口径10cm、器高5cm

屋後遺跡(G3-2-6)

座標(経緯度)
[34.5887849,](#)
[135.5762212](#)



・溝から円筒埴輪が出土。



器高43.1cm
口径24.4cm
底径15.6cm
窖窯焼成
2次調整ココ八ケ

三宅の「土師ヶ塚」

座標 (経緯度)
[34.587518,](#)
[135.552771](#)

- 『河内志』 享保20年(1735)
菅神廟 在=三宅村東=境内有=土師墳=
- 『大阪府全志』卷之四 大正11年(1922)
又南方に土師塚と称するあり、広さ壹坪許りの地にして、壹個の自然石を存し、附近の地を字して土師と呼べり、其の由縁詳ならず。
- 『大阪府史蹟名勝天然記念物』第三冊
昭和6年(1931)
土師墳 村の南にあり、その地を土師が墳と云ふ。一碑あり、高さ一尺一寸、幅四寸許、表面に「土師墳」と刻せり。今に移されて屯倉神社社務所前にあり。

小字名「土師ヶ塚」の範囲



- 東西約280m、南北約110mの範囲。
- 範囲内に南北方向の段丘崖が存在。
- 崖より東にある周囲より一段高い場所が塚の跡か。

石碑が移された屯倉神社

- 天慶5年(942)に菅原道真を祭神として創建。
- 縁起によると、元は穂日の社があったとされる。



高さ : 50cm
幅 : 36cm
奥行 : 24cm

土師墳の碑



屯倉神社の境内



菅原道真が腰かけた伝承が残る神形石

三宅古墳跡

座標 (経緯度)
[34.5917470,](#)
[135.5553789](#)

- ・確認調査で埴輪片が出土。
- ・墳丘は円形または帆立貝形。

円形地割の参考例

昭和17年(1942) 大阪市撮影



長原古墳群

一ヶ塚古墳(長原85号墳)

5世紀初頭

直径47mの円墳

周濠幅14m

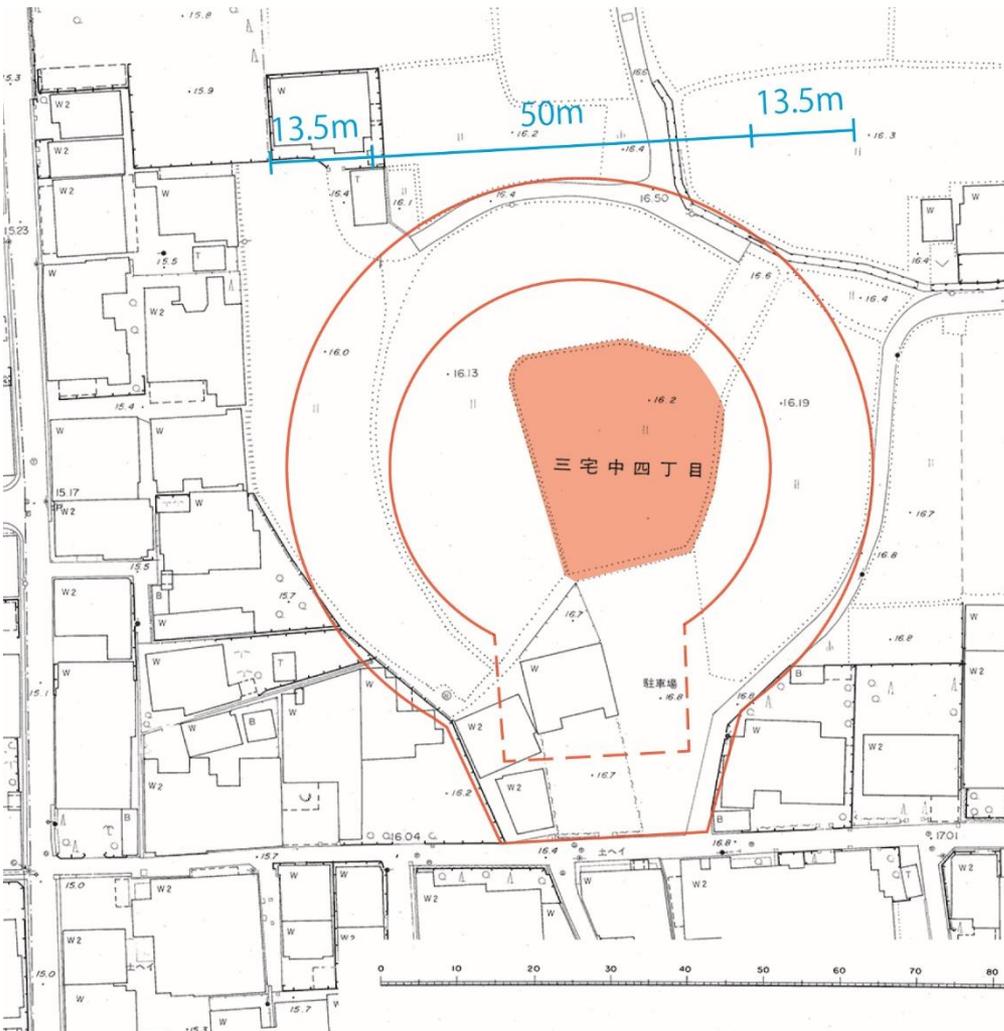
東側に12×7mの造出し

小字名「一ヶ塚」

昭和17年(1942) 大阪市撮影



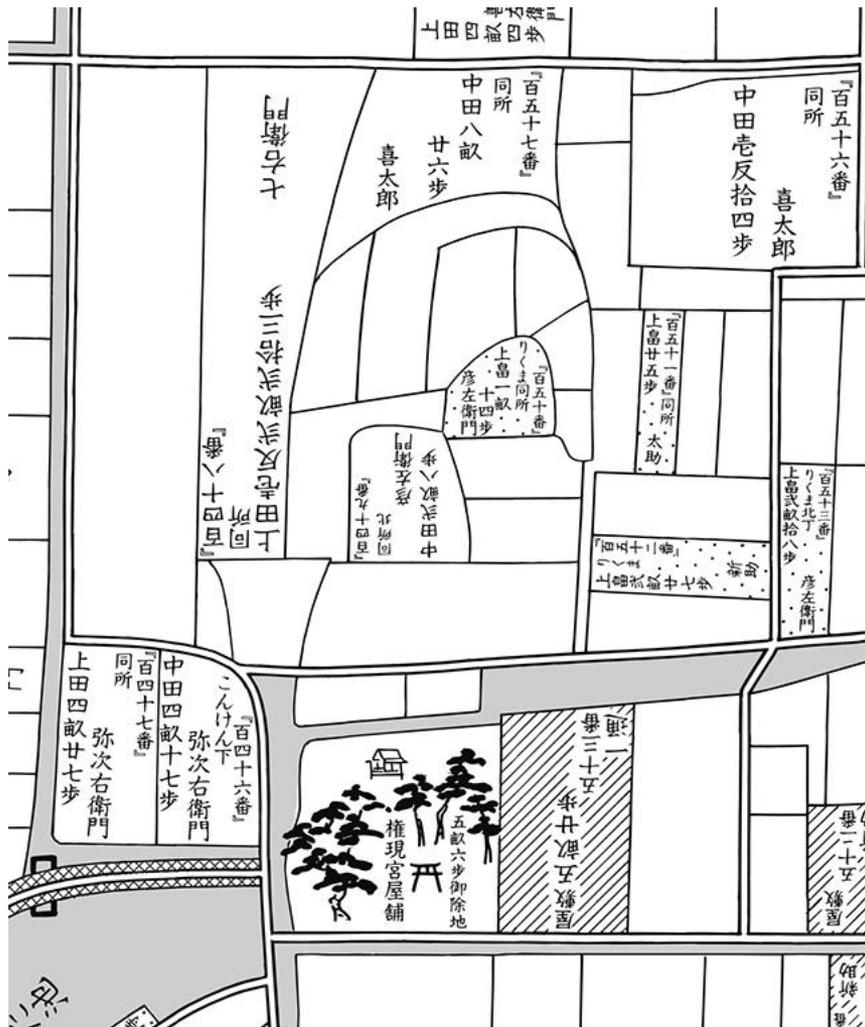
三宅古墳の墳丘規模復元



- 古墳と思われる地割は南北長87m。
- 中央部の地割は南北約29m。墳丘規模は30m以上。
- 内側の地割を墳丘裾とすれば後円部径50mの帆立貝形古墳か？

権現山古墳跡

座標 (経緯度)
[34.5912676,](#)
[135.5518933](#)



河内国丹北郡三宅村絵図(読み取り図、部分)

- 発掘調査歴がなく、遺物の表採もない。
- 地誌に墳墓の記載は見られない。
- 前方後円墳の周濠を思わせる地割で、南北長が約130m。
- 南に式内社の酒屋神社跡地が存在。

大堀遺跡(G3-1-9)

座標 (経緯度)
34.5883254,
135.5724677



・樋管に転用された円筒埴輪
が出土。

残存高57.5cm
底径15cm

どちらも体部外面に
2次調整ヨコハケなし

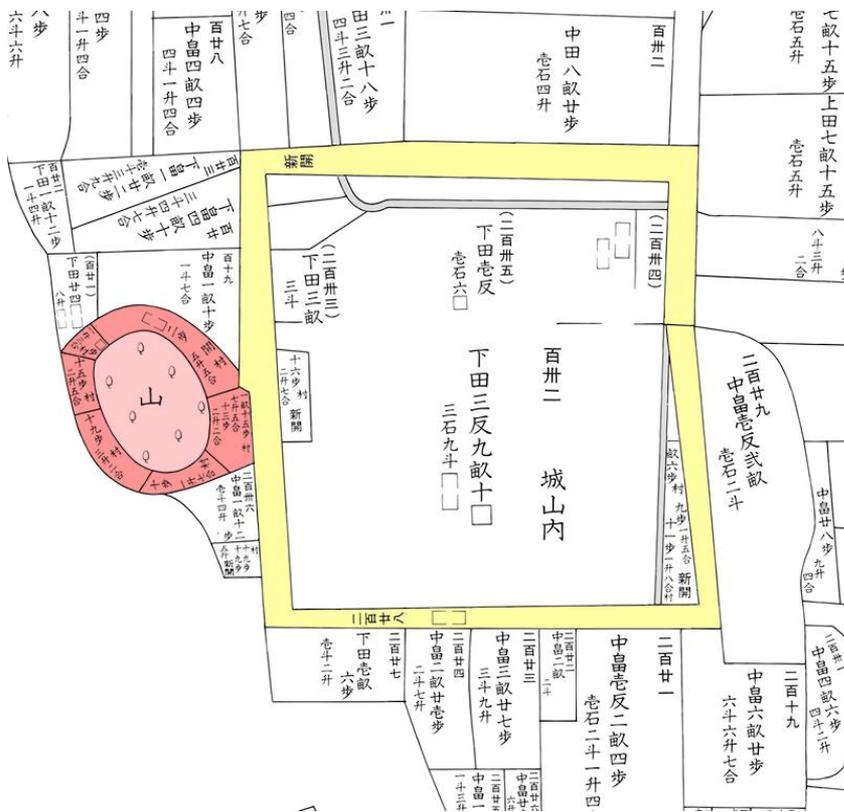
器高35.3cm
口径26.8cm
底径16.7cm



別所の小字名「山」と「城山」

座標 (経緯度) 34.59232136,135.56746286

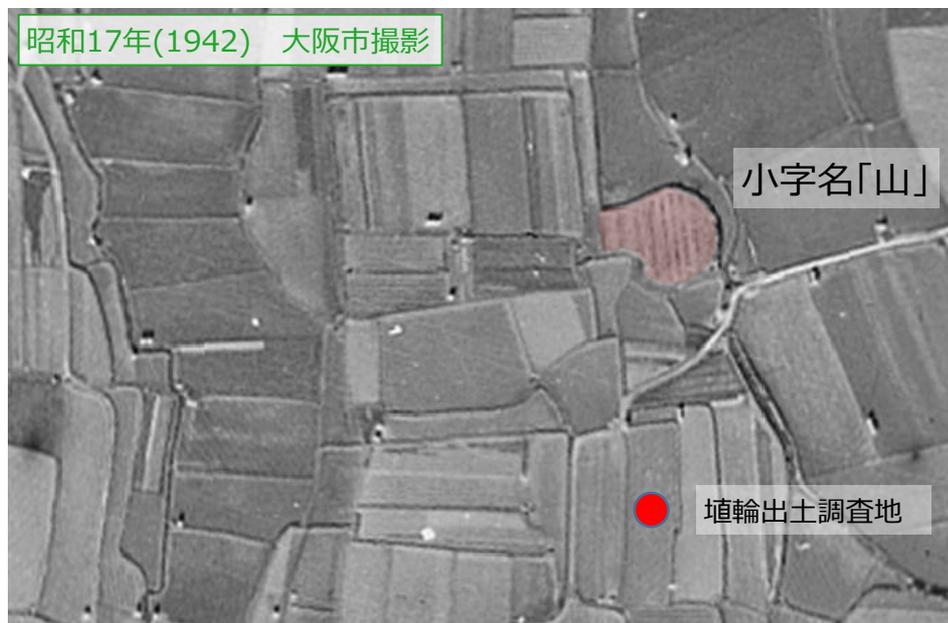
- 江戸時代の絵図に表現された「山」。周囲は開墾。
- 明治20年までは存在か。
- 長辺40m程の高まり。



河内国丹北郡別所村領内絵図(下が北)

延宝検地(1673~81)に伴い差し出したと考えられる絵図

出典：松原市市史編さん室編1995『河内国丹北郡別所村延宝検地帳』
松原市市史研究紀要5、第2図(p.5)



出典：地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)、
空中写真(1936~1942頃)を加工

別所遺跡(F2-4-7)

座標 (経緯度)
[34.5914182,](#)
[135.5674418](#)



埴輪を含む中世の整地層

- 小字名「山」「城山内」の南側で埴輪(6世紀)が出土。
- 奈良時代に古墳の墳丘が一部削られ、中世段階で更に削られ整地土に利用されたか。



整地層の埴輪出土状況



奈良時代の井戸



井戸の遺物出土状況

4. 泉北台地と 西除川周辺の古墳

『大阪府全志』に記された塚(1)

■南八下村 大字 大饗 「段の塚」

同寺址の附近に段の塚あり、封土の高さ壹丈・東西十八間・南北十間にして、河内志陵墓の条に段の塚は東大饗村にありと記せるもの是れなり。茅茨叢生せり。縁由は詳ならず。邑に檀野を姓とするものあり、或は之に関係あるものならんか。

■南八下村 大字 小寺 「古塚」

円墳各所に散点せり、封土の高さは三尺乃至四尺、周囲は一間四尺乃至三間なり。即ち字塚田に二箇・同龍寺に二箇・同田地坊裏に一箇・同釜の子に一個あるもの是れなり、何れも樹木なくして芝生なり、蓋し古墳墓ならん。河内志に「荒墓円墳七在小寺村」と記せるは、是等の塚を指せるならん。

『大阪府全志』に記された塚(2)

■北八下村 大字 北花田 古塚

東南に二ヶの古塚あり、封土の高さ各一間・周囲五間、相並びて共に茅茨を生ぜり。土俗伝へいふ。多田蔵人及び其の族人の墓なりと。河内国の住人に多田蔵人仲兼あり、寿永二年十一月九日頼朝に属して義仲と戦へり。然れども其の後も多田蔵人と称する者多ければ、其の果して中兼の墓なるかは詳ならず。

■八田村 大字 枯木 行基塚

(天美許曾神社の)北東隅に行基池あり。池の北方に行基塚といへるあり。東西式間・南北壺間半・高さ五尺の封土なり、村老の口碑に依れば、昔行基の住せし所にして、塚は其の墓なりといふ。

河合遺跡(C6-3-14)

座標 (経緯度)
[34.5701347,](https://www.google.com/maps/@34.5701347,135.5375882)
[135.5375882](https://www.google.com/maps/@34.5701347,135.5375882)

- 南北55m、東西23m以上の方形空間をコの字に囲う奈良時代の長舎。宮衙の可能性が高い。
- 柱穴の埋土などから円筒埴輪の破片が出土。



西除川沿いの古墳時代集落

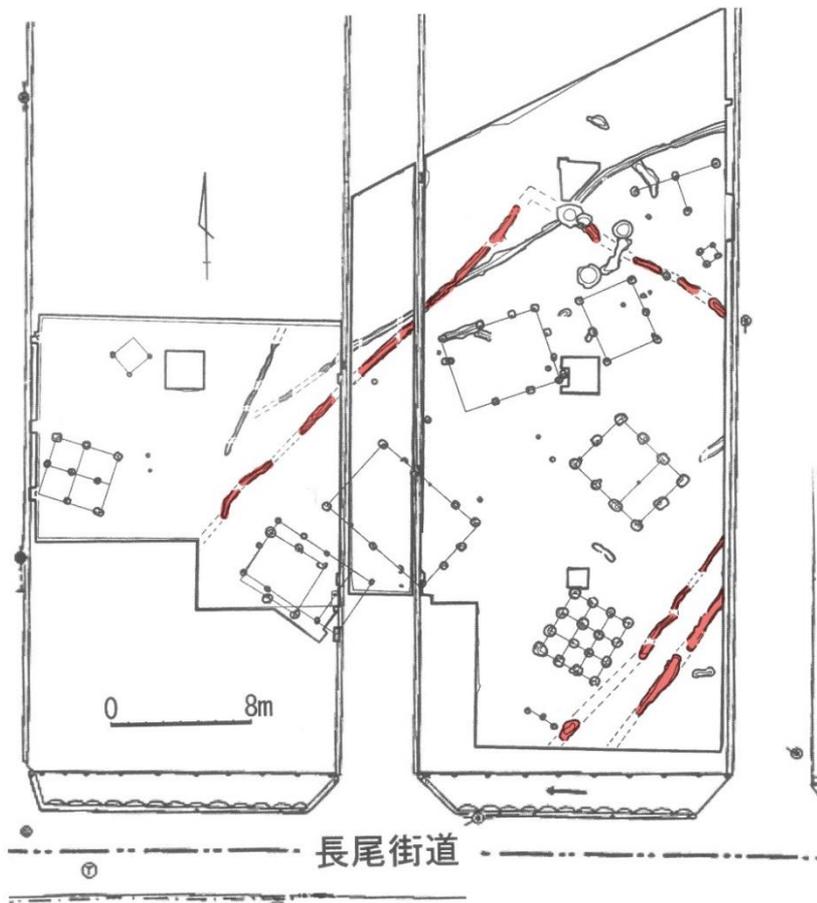
堀遺跡(C4-3-14)

古墳時代後期の
掘立柱建物3棟。
1棟は一辺1m以上の
柱穴を持つ。



清水遺跡(B5-1-15・17・22)

古墳時代後期の豪族居館か？



出典：岡本武2011「南河内における古代道路-古代丹比地域における古代道路の復元-」『大阪府立狭山池博物館研究報告』7、図13(p.28)

堀遺跡・高木遺跡

座標 (経緯度)

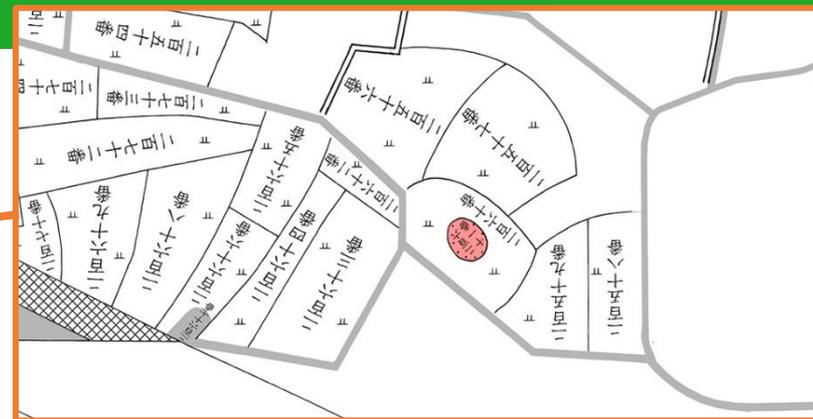
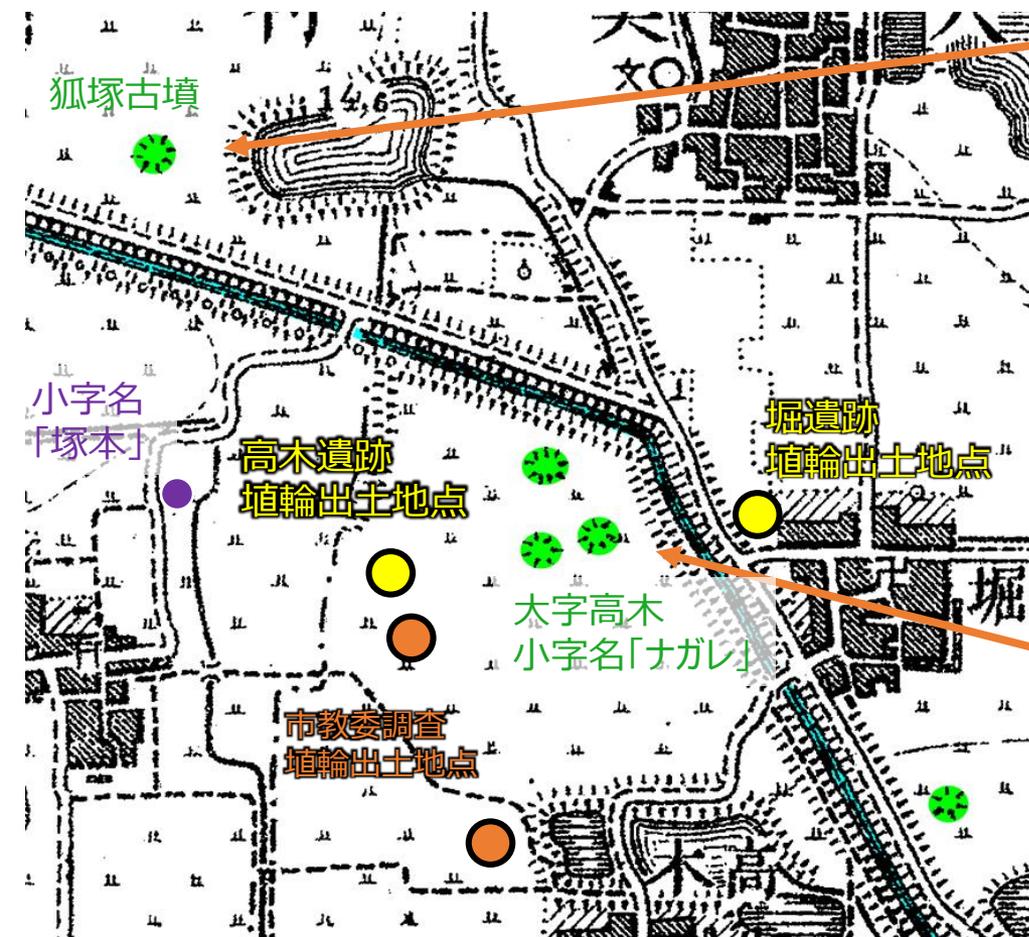
34.5829472,

135.5295120,

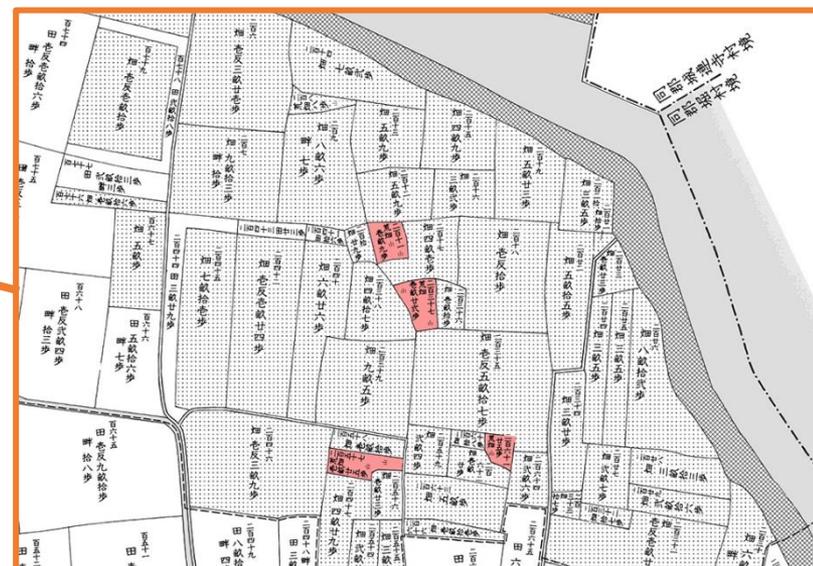
座標 (経緯度)

34.5839364,

135.5335647,



河内国第壹大区大倉小区丹北郡芝村鹿絵図(読み取り図・部分) 明治8年

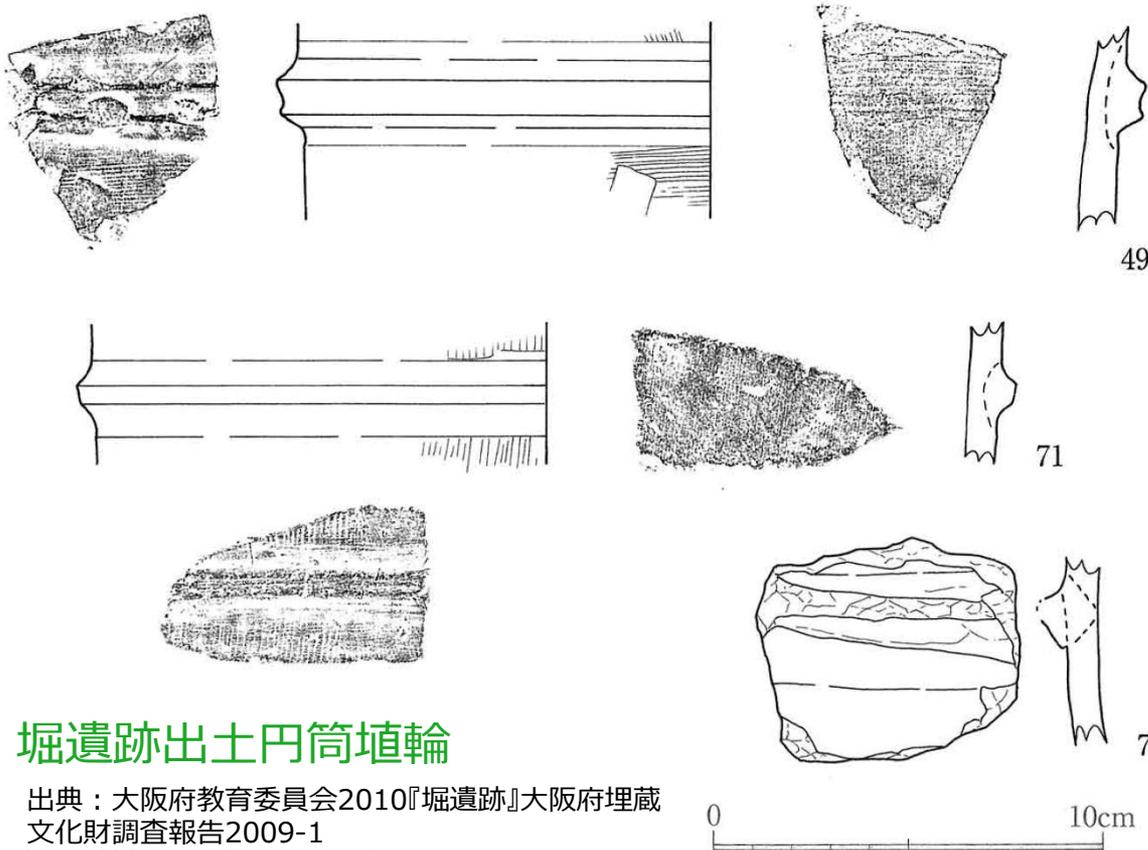


河内国丹北郡高木村全図(読み取り図・部分) 明治17年

出典：正式二万分の一地形図「金田」(明治41年測図同45年製版)、一部加工

堀遺跡と高木遺跡から出土した埴輪

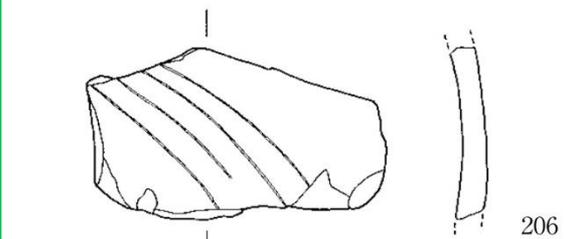
- いずれも後世の包含層から出土。
- 周辺に5～6世紀の古墳が存在？



堀遺跡出土円筒埴輪

出典：大阪府教育委員会2010『堀遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2009-1

<http://doi.org/10.24484/sitereports.4746>

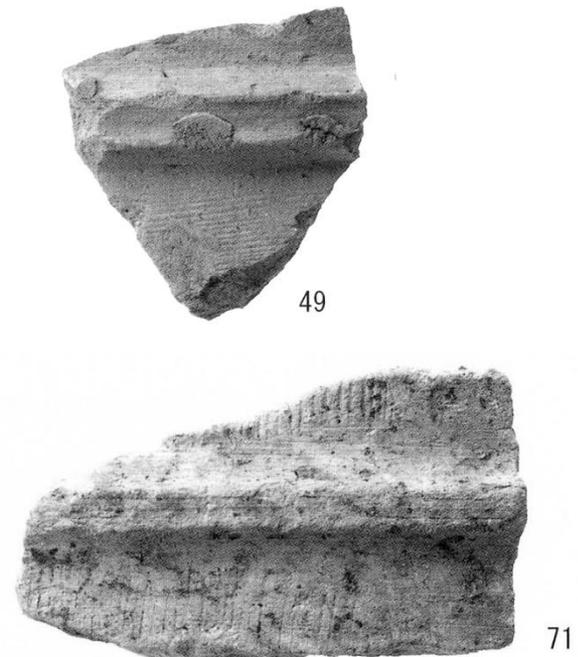


高木遺跡出土形象埴輪

出典：大阪府教育委員会2010『高木遺跡』

大阪府埋蔵文化財調査報告2010-3

<http://doi.org/10.24484/sitereports.18404>

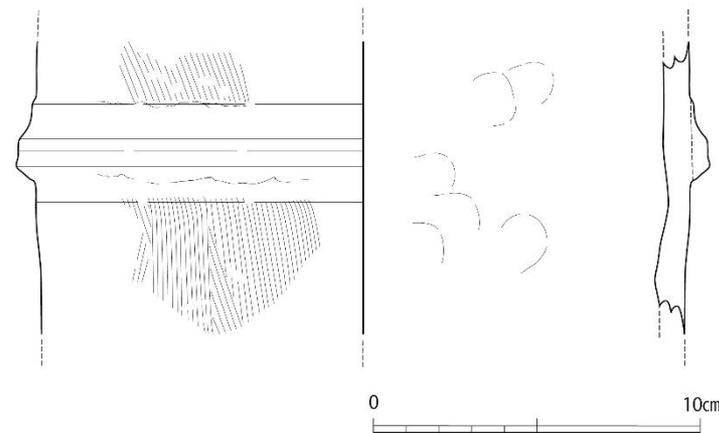
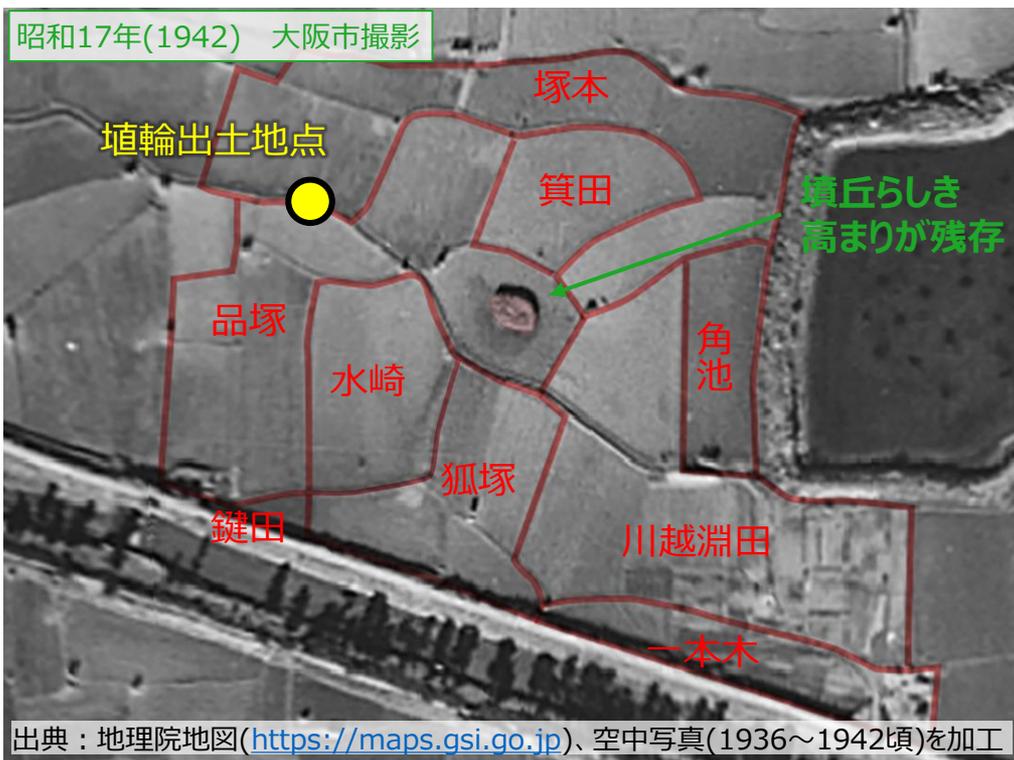


狐塚古墳跡(B3-3-39)

座標(経緯度)
[34.5872607,](https://www.google.com/maps/@34.5872607,135.5272364)
[135.5272364,](https://www.google.com/maps/@34.5872607,135.5272364)

『日本輿地通志』畿内部卷第四十二、
河内國之十六、丹北郡

荒墓 在_一津屋村_一曰_ニ御(三)墓_一、在_ニ矢田部
村_一曰_ニ大冢_一、又東瓜破村_一芝村_一各_一

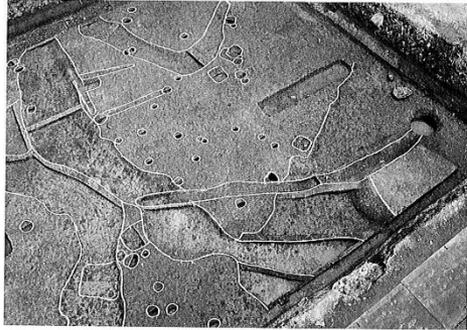


出典：松原市教育委員会2020『大和川今池遺跡・狐塚古墳跡』松原市文化財報告7、第17図(p.23)

<http://doi.org/10.24484/sitereports.88599>

座標 (経緯度)
[34.5930430,](#)
[135.5292659](#)

大和川今池遺跡

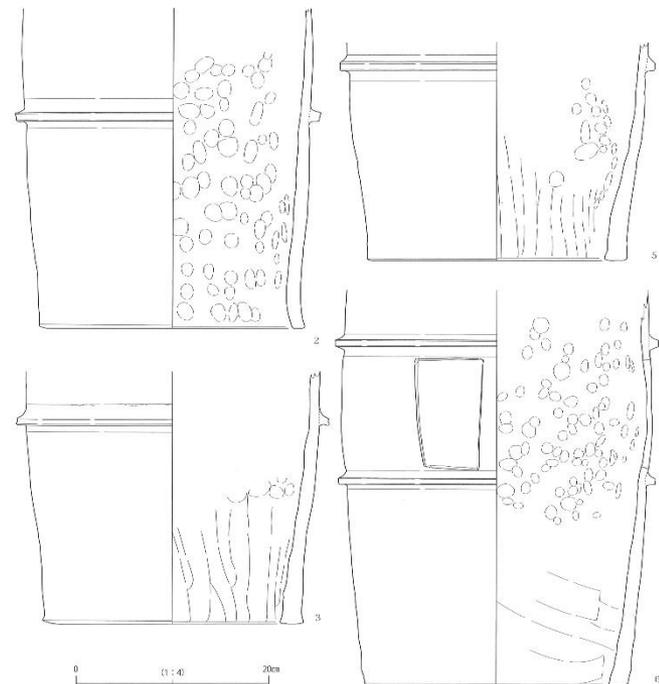


- 4世紀後葉～末の方墳。
- 墳丘の規模は、南北18m、東西15m。
- 周濠の幅は約5m、深さは最大で0.4m。
- 主体部は不明。
- 少なくとも7棟の家形埴輪と円筒埴輪を樹立。
- 現時点では、周囲に同時期の集落未確認。



方墳から出土した埴輪

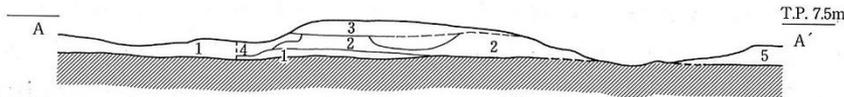
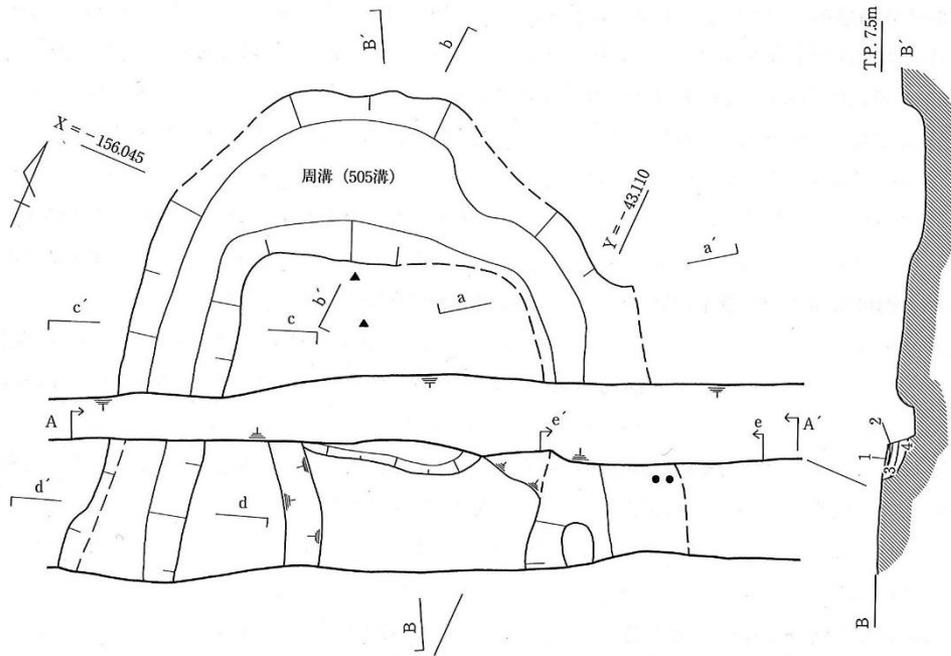
土壙墓(土坑759)の棺に
転用された円筒埴輪
口径39.2cm、残存高53.6cm



大和川今池遺跡(その6調査区)

座標(経緯度)
34.5955612,
135.5714962

- 6世紀前半頃の方墳。
- 墳丘の規模は、東西約5.8m、南北6m以上。
- 周溝幅は1.5~2.5m。
- 埴輪を伴わない可能性が高い。

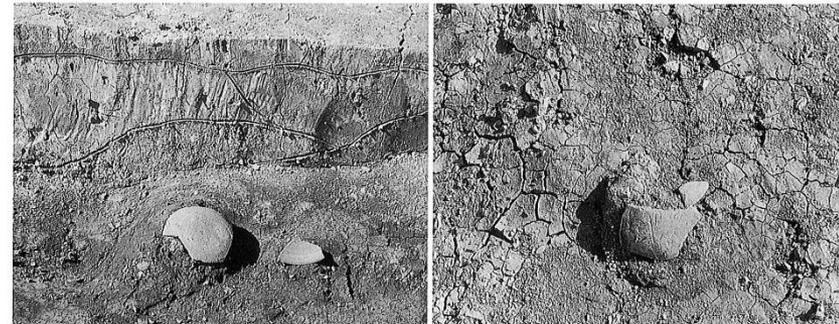


古墳(東西方向)

1. 5Y	6/4	オリーブ黄色	粘質土(上層にFe含む)
2. 5Y	5/3	灰オリーブ色	粘質土(Fe・ブロック土含む)
3. 25Y	5/2	暗灰黄色	粘質土(Fe・2層のブロック土含む)
4. 10YR	3/2	黒褐色	砂礫混じり粘質シルト(攪乱土)
5. 10YR	4/3	にぶい黄褐色	粘質シルト(Fe含む)
G. 10Y	6/2	オリーブ灰色	粘質土

古墳(主体部)

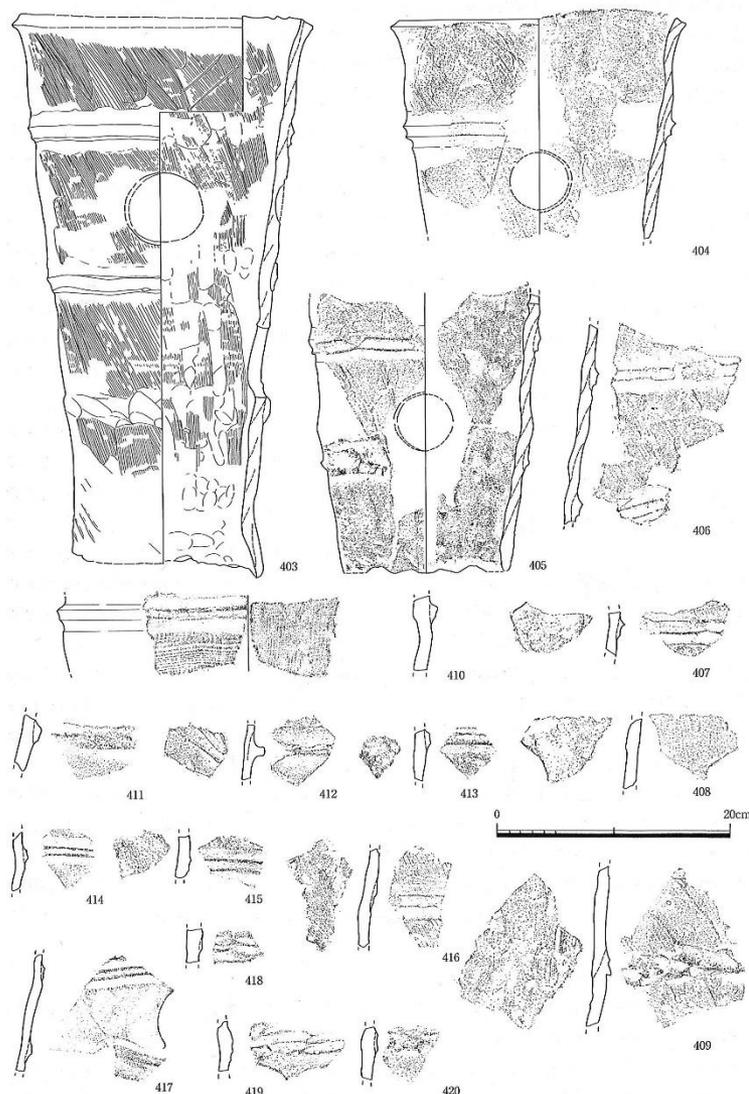
1. 10YR	5/1	褐灰色	砂混じり粘質シルト(Fe含む)
2. 25Y	6/3	にぶい黄色	砂混じり粘質シルト(Fe・ブロック土含む)
3. 25Y	6/2	灰黄色	粘質土(Fe・ブロック土含む)
4. 25Y	6/2	灰黄色	粘質土(Fe含む)



41. 古墳周溝(505溝)内 土器出土状況(南から) 42. 古墳周溝(505溝)内 土器出土状況(北から)

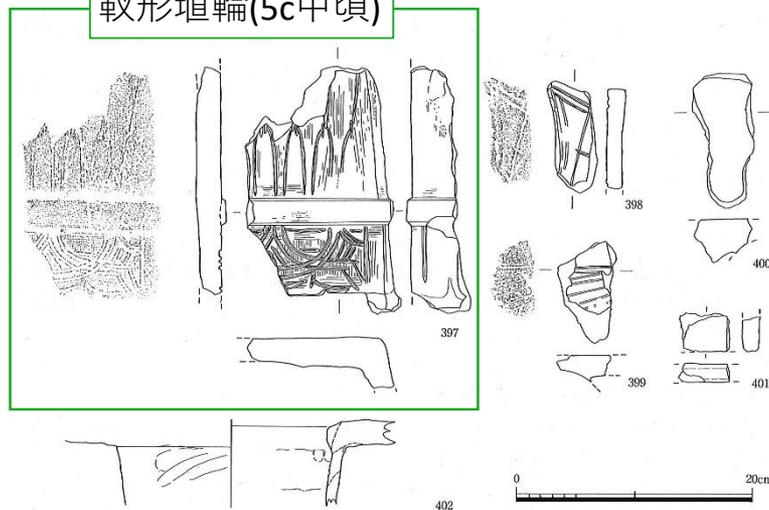
大和川今池遺跡(その5調査区)

座標(経緯度)
[34.5954211](#),
[135.5268190](#)



- 後世の流路などから5世紀後半～6世紀前半の埴輪が出土。
- 集落の継続期間に重なる時期の埴輪。

鞍形埴輪(5c中頃)

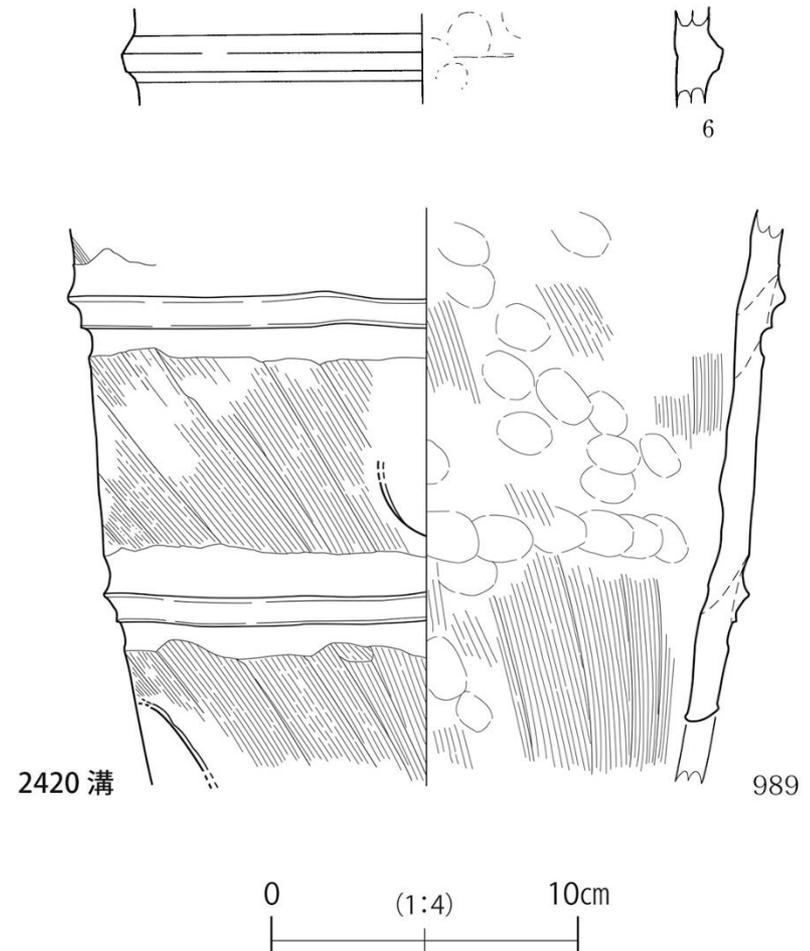


池内遺跡

西側出土地点の
座標 (経緯度)
[34.5932943,](#)
[135.5360231](#)

東側出土地点の
座標 (経緯度)
[34.5930496,](#)
[135.5428378](#)

- 後世の鋤溝と溝から5～6世紀の円筒埴輪が1点ずつ出土。
- 西側出土地点は、南の阪南大学本キャンパス内に小字名「塚田」が存在。
- 東側出土地点は、南に古墳時代の集落が存在。



出典：(財)大阪府文化財センター2010『池内遺跡』大阪府文化財センター調査報告書198

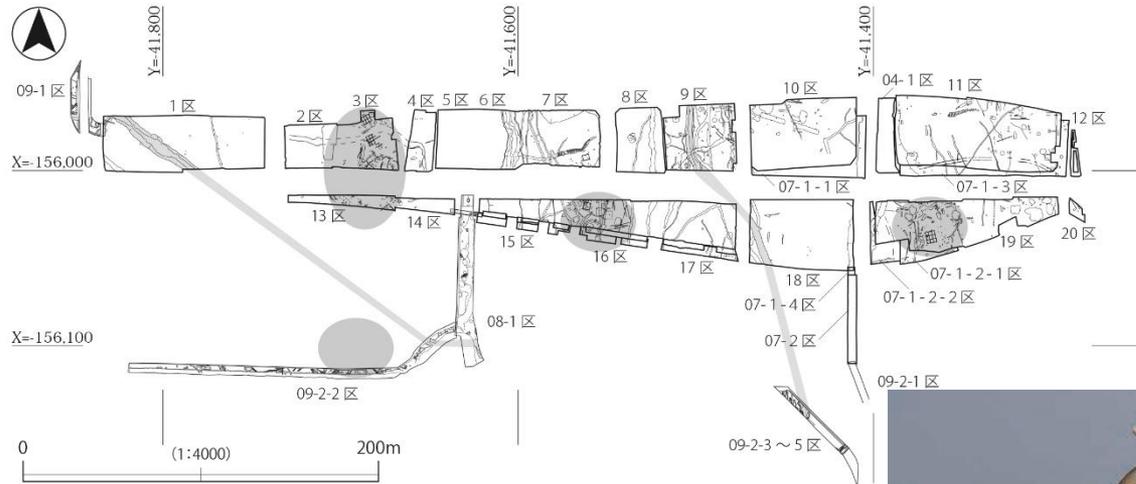
<http://doi.org/10.24484/sitereports.65582>

池内遺跡の古墳時代集落

- 古墳時代前期～後期の集落跡。
- 弥生時代に埋没した自然流路周辺の沖積リッジ上に集落を営む。
- 5世紀後半の陶質土器甕(縄蓆文)が1点出土。



三宅西遺跡の古墳時代集落



出典：(財)大阪府文化財センター2010『三宅西遺跡II』大阪府文化財センター調査報告書204、p29、図25
<http://doi.org/10.24484/sitereports.65590>

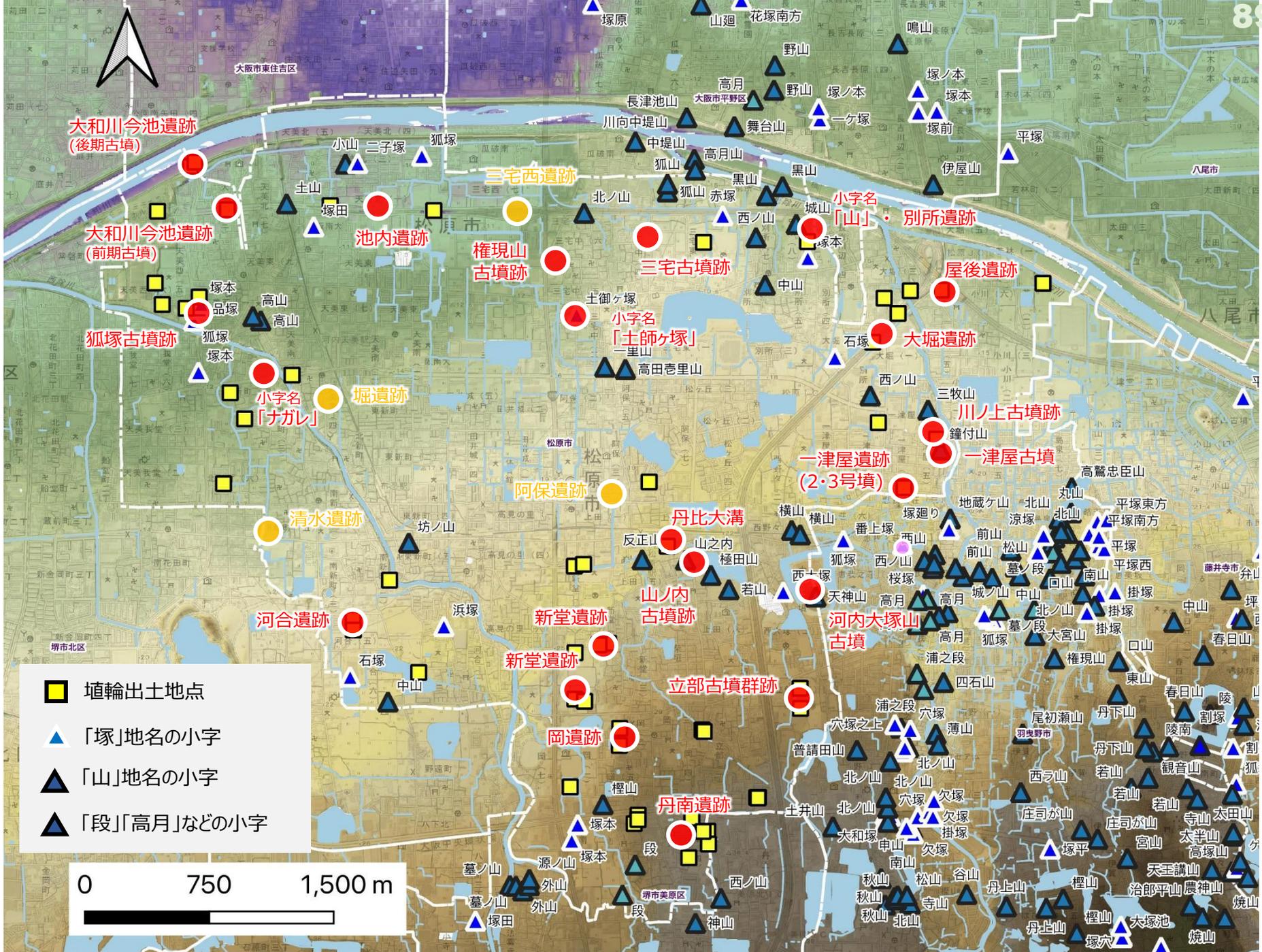
- 水制遺構を伴う南東～北西方向の流路3009。百済系陶質土器も出土。
- 集落の北に水田域？

- 4地点で古墳時代の集落遺構を確認。



出典：(財)大阪府文化財センター2009『三宅西遺跡』大阪府文化財センター調査報告書189、巻頭カラー図版2
<http://doi.org/10.24484/sitereports.65572>

4. おわりに



- 埴輪出土地点
- 「塚」地名の小字
- 「山」地名の小字
- 「段」「高月」などの小字

